



ヘリテージ・エクスペディションズ

日本地区正規代理店

株式会社 クルーズライフ



Heritage Expeditions

Antarctica • Western and South Pacific
Subantarctic Islands • Russian Far East

浪漫を求めて神秘に満ちた極北の地へ

北極

2022 Arctic

オホーツク海 / カムチャツカ半島 / 北東航路 / ウランゲリ島



感動と浪漫が待ち受ける北極へ



人類史上初の北東航路通航を成し遂げた

アドルフ・エリク・ノルデンショルド

(Adolf Erik Nordenskiöld)

1832年11月18日～1901年8月12日

フィンランド出身のスウェーデン系フィンランド人で鉱山学者及び探検家。

ノルデンショルドは、1878年、北東航路の開拓と北極における研究・調査のための航海計画をたてました。

実際は、シベリア海域の商業航路の開拓であったとも言われています。

1878年7月4日、蒸気船ヴェガ号でストックホルムを出港。

8月にはユーラシア大陸最北端のチェリユスキ岬を通過、

9月末に北東航路走破寸前にベーリング海峡で流氷に囲まれてしまいました。

しかし、1979年7月流氷から解放され、無事太平洋へ抜け、

人類史上初めて北東航路の通航に成功する事が出来ました。



ヘリテージ・エクスペディションズ社

ニュージーランド野生生物局の生物学者であったロドニー・ラスは、カカポやブラックロビンなどの絶滅危惧種に関する研究を通して、野生生物を荒野地域に閉じこめるのではなく、保護と保全をおこない人類と共存する事が重要であると考え、探検クルーズを通じて自然界の認識と保全を高めるために1985年、ヘリテージ・エクスペディションズ社を設立しました。

家族経営のヘリテージ社は、南極、亜南極、太平洋、ロシア極東、ロシア北極へ極地調査船、スピリット・オブ・エンダービーを運航しています。環境への負荷を最小限にして訪れた地域について多くを学び、経験出来る機会を最大限に提供しています。



目次

●ヘリテージ・エクスペディションズ社&クルーズライフについて	1P
●アドルフ・エリク・ノルデンショルド	2P
●北極の野生生物	3P
●北極の地図	4P
●クルーズカレンダー／服装と装備のご案内	5P
●No.1 千島列島探検とカムチャツカ半島探検クルーズ 14日間	6~8P
●No.2 カムチャツカ半島東海岸探検クルーズ 14日間	9~10P
●No.3 チュクチ半島と世界自然遺産ウランゲリ島探検クルーズ 15日間	11~13P
●No.4 極東ロシアの宝石探検クルーズ 21日間	14~16P
●No.5 世界自然遺産ウランゲリ島と北極探検クルーズ 15日間	17~18P
●No.6 オホーツク海探検クルーズ 12日間	19~20P
●No.7 伝説の北東航路探検クルーズ(西行き) 27日間	21~23P
●No.8 伝説の北東航路探検クルーズ(東行き) 27日間	24~26P
●利用客船 ヘリテージ・アドベンチャー	27P
●利用客船 スピリット・オブ・エンダービー	28P
●船内インフォメーション／ヘリテージ社から重要なお知らせ	29P
●旅行条件書(抜粋)	30P
●ご案内／お申込みからご出発まで	裏表紙

「クルーズライフ」は、
ヘリテージ・エクスペディションズ社の日本地区正規代理店です。

長年の豊かな経験を持つスタッフが、皆様に素晴らしい極地(北極と南極)探検クルーズをお届けいたします。南極・北極の多くは現代でも未知の世界です。雪と氷に覆われ太古の大自然が残る極地には、多くの生命が息づいています。美しい大自然や沈まぬ太陽、躍動感溢れる野生生物、巨大な氷山、初期探検時代の足跡など、地球の素晴らしさを実感する極地への感動の探検旅行です。まだ見ぬ究極の世界へ皆様に安全で快適にご案内します。さあ、お出かけください。ロマンを求めて究極の北極と南極の旅へ!

北極の野生生物

Wildlife of Arctic



ホッキョクグマ Polar Bear



シロフクロウ Snowy Owl



アゴヒゲアザラシ Bearded Seal



ヒグマ Brown bear



セイウチ Walrus



ウトウ Auklet



ツノメドリ Horned Puffin



オオワシ Steller's sea eagle



ホッキョクギツネ Arctic fox



ラッコ Sea otter



シャチ Killer Whale



ヘラシギ Spoon-billed sandpiper



ホッキョクジリス Arctic ground squirrel



クラカケアザラシ Ribbon Seal



トド Steller sea lion



ハジロウミバト Black Guillemot

北極



(注)地図は概略です。



ヘリテージ社 2022年 北極探検クルーズ・カレンダー

旅行開始日～旅行終了日	客船	CP	コースNo.	クルーズ名	日数	旅行開始地	旅行終了地	頁
2022年 6月15日(水)～ 6月28日(火)	HA		1	千島列島とカムチャツカ半島探検クルーズ	12	小樽	P.カムチャツキー	6～ 8
2022年 6月24日(金)～ 7月 5日(火)	SOE		6	オホーツク海探検クルーズ	12	ユジノサハリンスク	マガダン	19～20
2022年 6月28日(火)～ 7月10日(日)	HA		2	カムチャツカ半島東海岸探検クルーズ	14	P.カムチャツキー	ノーム	9～10
2022年 7月10日(日)～ 7月24日(日)	HA		3	チュクチ半島と世界自然遺産ウランゲリ島探検クルーズ	15	ノーム	ノーム	11～13
2022年 7月24日(日)～ 8月 7日(日)	HA		5	世界自然遺産ウランゲリ島と北極探検クルーズ	15	ノーム	ノーム	17～18
2022年 8月 7日(日)～ 8月21日(日)	HA		5	世界自然遺産ウランゲリ島と北極探検クルーズ	15	ノーム	ノーム	17～18
2022年 8月 8日(月)～ 9月 3日(土)	SOE	◆	7	伝説の北東航路探検クルーズ	27	アナディリ	ムルマンスク	24～26
2022年 8月21日(日)～ 9月 4日(日)	HA		5	世界自然遺産ウランゲリ島と北極探検クルーズ	15	ノーム	ノーム	17～18
2022年 9月 4日(日)～ 9月30日(金)	SOE	◆	8	伝説の北東航路探検クルーズ	27	ムルマンスク	アナディリ	15～18
2022年 9月 4日(日)～ 9月25日(日)	HA		4	極東ロシアの宝石探検クルーズ	21	ノーム	小樽	14～16

(備考1) 旅行開始地の「P.カムチャツキー」は、ペトロパブロフスク・カムチャツキーの略です。
 (備考2) 客船名の HA = ヘリテージ・アドベンチャー、SOE = スピリット・オブ・エンダビー
 (備考3) CP = アナディリ着または発の探検クルーズにはノーム(アラスカ)とアナディリ(ロシア)間の片道チャーター機(有料)の設定があります。

北極探検クルーズの服装と装備の目安

①防水・防風性の防寒着

防水・防風に優れた防寒具をご用意ください。
※レンタルはありません。

②防水性のズボン

ゾディアック・ボートに乗船中、水しぶきで濡れる事もあります。また、雪上に座り込む事もありますので、必ず防水性のズボン(ゴアテックス製)をご用意ください。防水性のズボンの下に着用する服装は保温性の高いコーデュロイやチノパンツがおすすめです。

③ゴム長靴

厚手の靴下を着用しても可能なサイズで膝下までのゴム長靴をご用意ください。北極には、栈橋はありません。砂地や石ころ、岩場などの海岸に上陸するため、靴底がしっかりしたものをご用意ください。足元が濡れますのでゴム長靴は必需品です。
※レンタルはありません。



北極での服装(イメージ)

④帽子

奪われる体温の半分は頭部からです。「つばと耳当て付の帽子」をお持ちになると便利です。

⑤ネックウォーマー&フェイスウォーマー

冷たい風から首回りや顔を保護するのにとても便利です。

⑥フリースやセーター

2～3枚程度をご用意いただくと重宝します。

⑦リュックサック

北極探検クルーズでは、乗下船の際、ゾディアック・ボートを利用しますので、安全のため、両手を空ける必要があります。カメラや双眼鏡、バッテリーなど上陸後に必要なものは、リュックサックに収納してご持参ください。

⑧手袋

フリース製とポリエステル製の厚手の手袋を2組をご用意ください。
※水に濡れても速乾性のあるものが便利です。

⑨下着

ヒートテックなど保温性の高い下着を4～5枚をご用意ください。

⑩厚手の靴下

厚手の靴下を4～5組をご用意ください。

⑪水着

水温や気象の状況が許せば、ポーラー・プランジ(北極海飛込み大会)も予定されています。

⑫その他

北極では、陸上でのトイレは禁止されています。トイレが心配な方はいざと言うときの為に医療用の紙パンツをお持ちになると安心です。

⑫役立つアイテム

- 紫外線防止用のサングラス & UVクリーム
- コンタクトレンズをご利用の方は予備の眼鏡
- 野生生物を観察するのに便利な双眼鏡
- とても寒い日の為に使い捨てカイロを数個



千島列島探検とカムチャツカ半島探検クルーズ

14日間

ロシアの環太平洋火山帯の野生生物と雄大な大自然を訪ねる感動の旅

太平洋の縁にある環太平洋火山帯は、極東ロシアの何処よりも遙かに劇的で壮観です。太平洋プレートを中心とする太平洋の海洋プレートが、その周辺の大陸プレートや海洋プレートの下に沈み込むことによって火山列島や火山群が形成され、火山活動と地熱活動によりユニークで驚くほど素晴らしい景観を作り出しています。

この活動によって形成された深い海溝からの湧昇と島々の周りの海流は、海鳥やクジラにとって理想的な環境を作り出しています。

そのため、この地域は**世界で最も豊かな海の一つで、多くの種と物凄い数の鳥類やクジラ類を見る事ができます**。多くのバードウォッチャーにとってのハイライトは、ウミスズメ科です。この探検クルーズ中には、ケイフリやウミバトと同様にエトピリカ、ツノメドリ、インコ、シラヒゲウミスズメ、ウトウなど最大14種類以上もの鳥類を観察する事ができます。それ以外の鳥類では、コアホドリ、マダラシロハラミズナギドリ、ハイイロウミツバメ、チシマウガラス、アカアシミツコピカモメ、コシジロアジサシなどを観察する事ができます。クジラに興味がある方には、ナガスクジラ、マッコウクジラ、ザトウクジラ、シャチ、ツチクジラ、バルーガなどが期待できます。

この地域における人類の歴史も同様に興味深く魅力的です。元々の先住民はアイヌとイテリメン族でした。彼らは、探検家のヴィトウス・ベーリングがこの地域を地図に書き込んだ後、18世紀に、コサックがこの地にやってきて、先住民を他の地へ追いやりました。ソビエト連邦は、この地域を取り巻き、冷戦時代のピークには、強力な太平洋艦隊基地を造り、艦隊の秘密を守るため、その地域は閉鎖され、ロシア人でもその地域を行き来するためには、特別の許可を得なければなりません。ペレストロイカから20年程経過した現在、人々は、この地域を比較的自由に旅行することは出来ますが、インフラはほとんど整備されていません。

今回、探検する地域は、3つの地理学上の興味深い地域で、「千島列島」とアリューシャン列島の西にある「コマンドルスキー諸島」、「カムチャツカ半島」です。それぞれの地域には、特徴やストーリーがあり、固有の植物や鳥類が生息しています。この探検クルーズで環太平洋火山帯の特別な人々や植物、動物、鳥類などの探索をおこないます。

●旅行開始日・旅行終了日・期間・利用客船

旅行開始日～終了日	期間	利用客船
2022年 6月15日(水)～ 6月28日(火)	14日間	ヘリテージ・アドベンチャー

●集合地/解散地: 小樽/ペトロパブロフスク・カムチャツキー (ロシア)

●食事条件: 朝食13回、昼食12回、夕食13回

●クルーズ代金(大人お一人様)

※単位: 米ドル (US \$)

利用客船	ヘリテージ・アドベンチャー	
旅行開始日	6月15日(水)	
旅行終了日	6月28日(火)	
期間	14日間	
客室タイプ	メインデッキ・トリプル(3人部屋)	9,450
	スーペリア・トリプル(3人部屋)	9,950
	スーペリア・デッキ4	11,950
	スーペリア・デッキ5	12,450
	ウォースリー・スイート	15,450
	ヘリテージ・スイート	21,450
	メインデッキ・シングル	14,440
	スーペリア・シングル	15,040
ランディングフィー	500	

(備考) ランディングフィーは、ご乗船後、米ドルの現金でお支払いいただきます。



※地図はイメージです。

■スケジュール

日次	月日(曜)	日程	食事	宿泊
1	6/15(水)	午後 北海道の小樽出港		船中
2	6/16(木)	午前 コルサコフ入港		船中
		午後 入港後、ロシアの税関と入国手続 手続終了後、クナシル島に向けて出港	○	
3	6/17(金)	終日 クナシル島(国後島)観光	○	船中
4	6/18(土)	終日 イトゥルップ島(択捉島)観光	○	船中
5	6/19(日)	終日 シムシル島とヤンキチャ島観光	○	船中
6	6/20(月)	終日 エカルマ島とオネコタン島観光	○	船中
7	6/21(火)	終日 アトラソフ島観光、第2クリル海峡通過、 プチ・ロックス観光	○	船中
8	6/22(水)	終日 ルースカヤ湾観光	○	船中
9	6/23(木)	終日 ジュバノバ川観光	○	船中
10	6/24(金)	終日 オルガ湾観光	○	船中
11	6/25(土)	終日 コマンドルスキー諸島観光	○	船中
12	6/26(日)	終日 コマンドルスキー諸島観光	○	船中
13	6/27(月)	終日 終日航海	○	船中
14	6/28(火)	午前 ペトロパブロフスク・カムチャツキー入港		船中
		午後 下船後、街の中心部または空港に送迎いたします。	○	

(備考) 食事欄の「○」は船内食を表します。





● 詳細日程

第1日目 小樽出港

私達の探検クルーズは、1920年代に建てられた倉庫を再利用したカフェやショップ、そして、ガラス細工、オルゴール、日本酒蒸留所、絵のように美しい小樽運河で知られる北海道の港湾都市、小樽から始まります。

港に停泊中のヘリテージ・アドベンチャーにお送りいたしますので、指定された集合場所にお集まりください。(時間と集合場所は、最終書類でご案内いたします)

日本の税関と出国手続を終えた後、サハリン島のコルサコフに向けて**小樽港を出港**する際、オブザーバーシラウンジ又はオブザーベーションデッキでエクスペディション・チームと一緒に出港風景をご覧ください。

出港後、スタッフと船の紹介と一連のブリーフィングが行われます。デッキから海鳥を探索できる十分な時間を確保するために、ブリーフィングは短時間で終わられるよう目指します。

第2日目 コルサコフ(サハリン島)入港/出港

ロシアの通関と入国手続を行います。手続終了後、クナシリ島に向けて出港します。天気が良ければ、クナシリ島の最高峰、爺々火山(チャチャ/標高1,822m)の素晴らしい景色を眺めることができます。

第3日目 クナシリ島(国後島)観光

地元のレンジャーと一緒にクリルスキー保護区を探索するため、早朝に千島列島最大の**クナシリ島**(国後島)の海岸に上陸を予定しています。保護区は島の北部と南部をカバーしており、その70%が森林に覆われています。ここで遭遇する可能性のある種はオオジシギ、キジバト、ツツドリ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、ノビタキ、ベニマシコなどです。頭上と近くの川に沿ってオジロワシがたくさん見えるはずですが、また、保護区で2つの特別な種、シマフクロウとヤマセミにも注意を払います。

第4日目 イトゥルップ島(択捉島)観光

ゾディアックボートでクリル管区の行政府の中心である**クリリスク**のコミュニティに向かいます。そこから地元のバスでイトゥルップ島の火山高原に向かいます。壮大な景色を眺めな

がらバランスキー火山に向かって進みます。到着すると、山の高いところにある天然温泉に浸るチャンスがあるかも知れません。ここは標高が高く、植生が異なるため、ノスリ、コマドリ、ウソ、ヤマヒバリ、ギンザンマシコ、オオムシクイなどの鳥類を探ることができます。

クリリスクに戻った後、ナチュラルリストと一緒にコミュニティを探索したり、ゾディアックボート・サファリでイトゥルップ島の沿岸を探索する予定です。ここには**ニューナイスズメ**と**コムドリ**が繁殖している事が知られています。潮の干満によっては様々なカモメを見られるかも知れません。ここでは**ウミネコ**、**オオセグロカモメ**、**ワシカモメ**、**ユリカモメ**、**シロカモメ**などのねぐらがよく見られます。

第5日目 シムシル島とヤンキチャ島観光

早めの朝食後、ゾディアックボートで**シムシル島**の北端にある広大なカルデラ湖をクルーズする予定です。ほんの四半世紀前まで、ソ連海軍の潜水艦艦隊の秘密基地で、多くの船員が働いていました。冷戦時代の記憶は今や完全に忘れ去られ、草木に覆われた基地跡を散策する事ができます。

この巨大なカルデラ湖の素晴らしい環境の中で、さまざまな種を見つけることが期待できます。最も一般的な鳥類の1つは**ノゴマ**の可能性が高く、雑木林の上で、さえずっているのを見る事ができます。**カケス**も島で繁殖しています。私たちが遭遇する可能性が高い他の種は**メボソムシクイ**、**アカハラ**、**ギンザンマシコ**、**クロジ**などです。

午後、水没した火山の頂上のカルデラ湖にある**ヤンキチャ島**へのクルーズを計画しています。ここは繁殖する**ウミスズメ**の数は信じられないほど多く、この探検クルーズを通しての**ハイライト**の1つです。天候や海の状況に応じてゾディアックボートで海岸線の一部を一周し、カルデラ湖に入ります。ここでの**エトロフウミスズメ**と**シラヒゲウミスズメ**の集団は壮観です。**ハシトウミガラス**と**ウミガラス**、そして**エトピリカ**と**ツノメドリ**も観察が期待できます。また、翼の一部が白色の**ウミバト**は印象的です。カルデラの中にある間、**エトロフウミスズメ**と**シラヒゲウミスズメ**の繁殖コロニーを通過し、**シノリガモ**も見られる可能性があり

ます。また、次の食事を探して**ウミスズメ**の**コロニー**をうろついている好奇心の旺盛な**ホッキョクギツネ**を見れる絶好のチャンスです。夕方遅くに船に戻る頃、ウミスズメの大群が空を真っ黒に覆い尽くすようにコロニーに戻るさまは、決して忘れる事の出来ない体験となることでしょう。

第6日目 エカルマ島とオネコタン島観光

エカルマ島沖に投錨する予定です。この島は千島列島の多くの島々と同様に火山島です。島には**数十万羽ものフルマカモメ**が繁殖しており、海岸沿いをゾディアックボートでクルーズして多くの鳥類を楽しむ予定です。ここで繁殖する他の種には**エトピリカ**と**ツノメドリ**がいます。島に生息する**ハヤブサ**がウミスズメを狩っているのを目にすることもあります。

午後、**オネコタン島**の北端に上陸する予定です。そこからブラックレイクまで比較的簡単に歩いて行くことができます。この散策では低木のハイマツ(這松)やヒメカンバ、チシマメヤナギなどが生えている場所を通り抜けます。私達が島を訪れる時期は、春のような気候で、湖への往復の道すがら、見事な蘭など沢山の野生の花々が咲いている可能性がります。通常、湖では**スズカモ**や**カワアイサ**などの野鳥が見られます。散歩の途中では**アメリカタヒバリ**、**アカハラ**、**シマセンニュウ**、**ノゴマ**、**ギンザンマシコ**を探します。

上陸するピーチャや散策の際には第二次世界大戦中に日本人によって建てられた広範な要塞跡を目にすることができます。ロシアは終戦時に日本を打ち負かし、それ以来、実効支配していますが、日本政府は、国際法上は帰属未定であると主張しています。

第7日目 アトラソフ島観光と第2クリル海峡通過、プチ・ロックス観光

朝、**アトラソフ島**に到着します。上陸地点の近くの海岸には旧ソ連の強制労働収容所の廃墟とヒバリシギや他の渉禽類を見ることができるとは思いますが、いくつかの小さな湿地の池があります。近くの崖のいくつかには**チシマウガラス**のコロニーがあります。湾の外では、**シノリガモ**、**ピロードキンクロ**、**スズガモ**、**ヒドリガモ**、**ヨシガモ**、**ラッコ**を見られるチャンスが

あります。

次にシムシル島とパラムシル島との**第2クリル海峡**を通過して**プチ・ロックス**(Ptich' i Rocks) 又は**バードロックス**に向かう予定です。ここから群島の最高峰アライト火山(標高2,339m)を見る事ができます。

ここでは、たくさんの鳥やアザラシ、ラッコが生息する魅力的な岩層の**プチ・ロックス**をゾディアッククルージングします。ラッコはロシアでほぼ絶滅の危機に瀕していましたが、現在では元の個体数のほぼ3分の2にまで回復しつつあります。**ゼニガタアザラシ**と**ゴマフアザラシ**もよく見られ、**エトピリカ**の個体群も見られます。

第8日目 ルースカヤ湾(カムチャツカ半島)観光

天候が良ければフィヨルドを航行する際、カムチャツカ半島南部の雪に覆われた火山の素晴らしい風景が出迎えてくれます。

ルースカヤ湾はカムチャツカ半島の南端から北に約241km位置する孤立したフィヨルドです。入り口付近で**マダラウミスズメ**と**絶滅危惧種のコバシウミスズメ**の両方が目撃されています。**マキノセンニュウ**、**アトリア**、**アカマシコ**、**カワラヒワ**、**カシラダカ**など、バードウォッチングに最適なフィヨルドの上部に上陸する予定ですが、ヒグマがいますので注意を払う必要があります。また、**ラッコ**、**ゴマフアザラシ**、**トド**、**シャチ**を観察できる絶好のチャンスがあるフィヨルドの入り口をゾディアッククルーズする予定です。

第9日目 ジュパノバ川(カムチャツカ半島)観光

ジュパノバ川の河口の沖合に投錨し、ゾディアックボートで**ジュパノバ川**を数時間クルーズして鳥類やその他の野生生物を探します。煙の火山と何キロメートルも続く、手つかずの森の組み合わせは、この地域を非常に特別なものにしてはいますが、高密度の**オオワシ**など、いくつかの例外的な野生生物の生息地でもあります。通常、オオワシは川岸に隣接した場所に巨大な棒状の巣をつくります。その結果、この雄大な猛禽類のいくつかの例外的な景色を得る絶好のチャンスがあります。それ以外にもたくさんの野生生物がいるはずですが、以前は**シロエリオオハム**、**ヨシガモ**、**タカブシギ**、**コシジロアジサシ**、**ツメナガセキレ**

イ、**メボソムシクイ**、**コガラ**、**シマアオジ**、**カシラダカ**など観察できました。

第10日目 オルガ湾観光

オルガ湾は非常に大きなクロノツカヤ保護区の一部で、世界的に有名な間欠泉の谷もあります。ここは私達がこれまで訪問した場所とは全く異なり、緑豊かなカムチャツカの森が海岸まで続いています。

ここでは複数の鳥類やヒグマなどが見られる可能性があります。オルガ湾周辺の海域には多くの**コククジラ**が回遊しています。コククジラは時々ボートに近寄ってきます。条件が良ければゾディアックボートでホエールウォッチングを予定しています。背後にそびえる火山は、本物のカムチャツカの荒野を探索できる素晴らしい環境です。

第11~12日目 コマンドルスキー諸島観光

コマンドルスキー諸島はアリューシャン列島の西の端に位置し、同列島中で唯一ロシア領の島です。諸島の名前は、デンマーク生まれのロシア帝国の探検家ヴィトゥス・ベーリング司令官に因んで名付けられました。1741年の2度目の探検でアジアと北アメリカの間を航海した最初のヨーロッパ人になった時に島を発見しました。残念ながらアラスカ探検の帰途、ベーリングの船は嵐に遭遇し座礁。彼は多くの乗組員と一緒にベーリング島で亡くなりましたが、ベーリングの墓を示す単純な墓石を除いて、彼らが島で過ごした時間の証拠は殆ど残っていません。

コマンドルスキー諸島での2日間は**ベーリング島**と**メードヌイ島**の両方を訪れる予定ですが、最初に立ち寄るのはベーリング島の**ニコルスコエ村**です。村に滞在中、世界中でも数少ない「絶滅種のステラカイギウウの骨格」を展示している博物館を訪れるチャンスがあります。また、ここでは素晴らしいバードウォッチングも楽しめます。

海岸線に沿って何百羽もの**ワシカモメ**と局所化された少数の**アカアシミツユビカモメ**が見られます。**チシマシギ**と**メダイチドリ**の両方も見ることができます。ここでは**ツメナガホオジロ**と**ユキホオジロ**の両方が常に見られます。また、

セジロタヒバリが繁殖することで知られている村の背後広がるツンドラ地帯を探索する機会もあります。コマンドルスキー諸島の上陸は天候と海象状況によって決まります。可能性のある場所には**2,000頭を超えるキタオットセイ**のコロニーがあり、ここでは**トド**や**200頭ものラッコ**も見ることができます。

ゾディアッククルージングでは**アカアシミツユビカモメ**、**ウミオウム**、**ツノメドリ**、**ウミバト**を間近で見ることが出来る場所もいくつかあります。また、海鳥や鯨類にとって絶好の海域であるベーリング島の南海岸に沿ってクルーズする予定です。その際、**アホウドリ**、**クロアシアホウドリ**、**コアホウドリ**、**マダラシロハラミズナギドリ**、**アカアシミツユビカモメ**、**コウミスズメ**、**ウミオウム**、**シラヒゲウミスズメ**、**ツノメドリ**と**エトピリカ**などが見られる可能性がります。さらに、この海域は**マッコウクジラ**、**ザトウクジラ**、**ミンククジラ**、**ツチクジラ**、**シャチ**などの鯨類も有名です。

第13日目 終日航海

ペトロパブロフスク・カムチャツキーに向けてカムチャツカ海溝を航海します。太平洋プレートが北アメリカプレートに沈み込んでいるプレートの境界にあたるアリューシャン海溝は餌が豊富なため**シロナガスクジラ**、**ナガスクジラ**、**ザトウクジラ**、**マッコウクジラ**、**ツチクジラ**、**イシイルカ**、**シャチ**など、クジラ類を目撃できる可能性があります。もちろん、**アカアシミツユビカモメ**、**エトピリカ**、**ウミスズメ**、**ハイイロウミツバメ**などの鳥類も観察できます。

第14日目 ペトロパブロフスク・カムチャツキー入港/下船

朝、歴史的な街**ペトロパブロフスク・カムチャツキー**に入港します。アバチャ湾を航行する際、素晴らしい景色が広がります。ペトロパブロフスク・カムチャツキーは、カムチャツカ半島の主要都市で、この地域の首都および行政の中心地です。この街とその周辺地域には、たくさんの見どころがあります。朝食後、エクスペディション・スタッフや乗組員に別れを告げて下船します。下船後、街の中心部又は、空港にお送りいたします。



カムチャツカ半島東海岸探検クルーズ

14日間

シベリアの忘れ去られた海岸

地球上で最も辺鄙な場所の一つであるシベリア東海岸には、イテリメン族、コリヤーク族、チュクチ族などの先住民が住んでいます。17世紀初頭、毛皮の猟師やアザラシ猟師は、ロシア皇帝の名の下にこの地域の自然資源を乱獲しました。

スターリンとその後の指導者達は、この地域の経済的発展を促進し、ソ連風の町を造り、ここに移住して働く者には特別手当を支給し、伝統的な生活様式を集産化（生産手段を国有ないし公有とし、共同管理）させました。

鉄のカーテンが降ろされ冷戦が激化した時には、ここは、立入禁止の地域となりました。この地域の旅行範囲は厳しく制限され、軍事施設や防衛のための早期警戒用レーダーが整えられ、ロシア太平洋艦隊は海岸線を警備するようになりました。

1990年代初頭にベレストロイカの失敗とソビエト連邦の崩壊により、すべてが変わり、軍事施設は放棄され、大量に移住した労働者は西に去り、町や産業は放棄されました。

厳しく管理された経済が崩壊したため、先住民は以前の伝統的な生活様式に強制的に戻されました。同時にこの地域の立ち入りが少し緩和されましたが、25年間もこの地域の旅行は厳しく制限されていたため、個人での旅行は事実上不可能な状況となっています。

この地域のほとんどはインフラ整備がされておらず、数キロメートルの道路だけが、ペトロパブロフスク・カムチャツキーやアナディリなどの主要な町を離れるとホテルもありません。主要な町へは飛行機の運航はなされましたが、それ以外の地域へは飛行機もしくは船でアクセスできるのか、地元民ですらわかっていません。

数奇なことに、人類の歴史を通してこの地域の豊かな自然について見過ごされ、世界はこの地域のことについて全く知らされていませんでした。火山が大半を占めるカムチャツカ半島南部の素晴らしい海岸線、コリヤーク地方のフィヨルド、豊かな河口、チュクチのツンドラなど、地球上の同じような緯度の場所に生息し、人間や訪問者に邪魔されないように、海岸線には、多様な野生生物が生息しています。最も象徴的なものは、この地域の固有種であるヘラシギが絶滅の危機に瀕していることです。

過去5年間、我々はこの固有種に対して保護の取り組みを行い、国際鳥類及びロシア研究チームを支援してきました。

2016年のエクスペディションでは、支援を継続するだけでなく、研究者が気候の変化などさまざまな理由で生じる生物の数の変化や分布状況を調査し、固有種以外の海鳥やシギ類・チドリ類などの渉禽類（しょうきんるい）まで支援を拡大しました。

●旅行開始日・旅行終了日・期間・利用客船

旅行開始日～終了日	期間	利用客船
2022年 6月28日(火)～ 7月10日(日)	14日間	ヘリテージ・アドベンチャラー

● 集合地／解散地：ペトロパブロフスク・カムチャツキー（ロシア）／ノーム（米国、アラスカ州）

● 食事条件：朝食13回、昼食12回、夕食13回

●クルーズ代金（大人お一人様）

※単位：米国ドル（US \$）

利用客船	ヘリテージ・アドベンチャラー	
旅行開始日	6月28日(火)	
旅行終了日	7月10日(日)	
期間	14日間	
客室タイプ	メインデッキ・トリプル(3人部屋)	9,450
	スーパーリア・トリプル(3人部屋)	9,950
	スーパーリア・デッキ4	11,950
	スーパーリア・デッキ5	12,450
	ウォースリー・スイート	15,450
	ヘリテージ・スイート	21,450
メインデッキ・シングル	14,440	
スーパーリア・シングル	15,040	
ランディングフィー	500	

（備考）ランディングフィーは、ご乗船後、米国ドルの現金でお支払いいただきます。



※地図はイメージです。

■スケジュール

日次	月日(曜)	日程	食事			宿泊
			朝	昼	夕	
1	6/28(火)	午後 夕刻 ヘリテージ・アドベンチャラーに乗船 ペトロパブロフスク・カムチャツキーを出港			○	船中
2	6/29(水)	終日 ジュバノバ川観光	○	○	○	船中
3	6/30(木)	終日 コマンドルスキー諸島観光	○	○	○	船中
4	7/ 1(金)	終日 コマンドルスキー諸島観光	○	○	○	船中
5	7/ 2(土)	終日 カラギンスキー島観光	○	○	○	船中
6	7/ 3(日)	終日 ヴェルホトゥロフ島とゴヴェナ半島観光	○	○	○	船中
7	7/ 4(月)	終日 コリヤーク&チュクチ海岸観光	○	○	○	船中
8	7/ 5(火)	終日 コリヤーク&チュクチ海岸観光	○	○	○	船中
9	7/ 6(水)	終日 コリヤーク&チュクチ海岸観光	○	○	○	船中
10	7/ 7(木)	終日 メイヌイピリグイノ観光	○	○	○	船中
11	7/ 8(金)	終日 プレオブラゼニヤ湾観光	○	○	○	船中
12	7/ 9(土)	終日 イティグラン島&ペンキングニー湾観光	○	○	○	船中
13	7/10(日)	夕刻 プロヴィデニヤ出港	○	○	○	船中
< 国際日付変更線通過 >						
14	7/10(日)	朝 午前 ノーム入港／下船 ※下船後、空港或いは町の中心地までお送りいたします。	○			船中

（備考1）食事欄の「○」は船内食を表します。

（備考2）日付変更線の関係でノーム到着は7月10日（日）となります。



●詳細日程

第1日目 ペトロパブロフスク・カムチャツキーにて乗船／出港

カムチャツカ地方の首府としてカムチャツカ半島全体の行政の中心となっているペトロパブロフスク・カムチャツキーに到着。港に停泊中のヘリテージ・アドベンチャラーにお送りいたしますので、指定された集合場所にお集まりください。（時間と集合場所は、最終書類でご案内いたします）

午後、ヘリテージ・アドベンチャラーに乗船。夕刻、ペトロパブロフスク・カムチャツキーを出港します。

出来れば、出港日より数日前に到着して、その地域を探索される事をおすすめいたします。もし、数日間滞在するのであれば、世界的に有名な「間欠泉の谷ヴァレー・オブ・ゲイサー」などのオプションツアーやホテルの手配をいたします。ペトロパブロフスク・カムチャツキーは、歴史的な町で、美術館や記念碑がたくさんあります。

第2日目 ジュバノバ川観光

午前、ジュバノバ川でのゾディアック・クルージングを予定しています。目的はオオワシで、たいてい川の近くに巣を作っています。かなりの数のゴマフアザラシが川の砂州にいます。また、水鳥や渉禽類も観察できます。

午後、コマンドルスキー諸島に向けて出港。船上からコアアウドリやマダラシロハラミズナギドリ、ハイロウミツバメなどの鳥を探索します。カムチャツカ海溝は、クジラ類にとって素晴らしい環境で、前回の横断時にはシロナガスクジラを見ることができました。

第3～4日目 コマンドルスキー諸島観光

野生生物が豊富なコマンドルスキー諸島は、1741年にデンマーク生まれのロシア帝国の探検家ヴィトゥス・ベーリングが、セント・ピートル号のアラスカ探検からの帰路にベーリング島を発見しました。

上陸観光とゾディアック・クルージングで島々を探索します。最初に訪れるのは、興味深い博物館のあるニコルスコエの村です。ゾディアック・クルージングではチシマウガラス、アカアシミツコビカモメ、ウミバト、ツノメドリ、ウミオウム、エトコフミズズメ、シラヒゲウミズメやラッコなどを観察できるでしょう。

ベーリング島の南海岸に沿ってクルーズします。この海域はザトウクジラ、マッコウクジラ、ミンククジラなどのクジラ類が回遊していて、シャチやツチクジラなどにもよく出くわします。いつどこに上陸できるかは天候と海象によって決まりますが、近くには、メドヌイ島や1741年にヴィトゥス・ベーリングの乗っていた船が座礁し死亡したコマンドル湾など非常に興味深い場所が数多くあります。

第5日目 カラギンスキー島観光

カムチャツカ半島の東海岸にある大きな無人

島のカラギンスキー島には、多種多様な野生生物が生息しています。

上陸予定地は、ムナグロ、トウネン、アカエリヒリアシギなどの渉禽類が見られるツンドラの沼地、池、砂利浜を寄せ集めたような場所です。オガワコマドリやオオジュリンも観察できるかもしれません。

第6日目 ヴェルホトゥロフ島とゴヴェナ半島観光

ヴェルホトゥロフ島には、いくつかの巨大な海鳥の営巣地があり、崖の頂上の営巣地へは短い急な道をたどる事で近づくことができます。ヴェルホトゥロフ島にはエトピリカやハシブトウミガラス、ヒメウ、ミツコビカモメなど海鳥の大きな繁殖地があります。また、崖の上からは素晴らしい眺めをお楽しみいただけます。ここではコケワタガモやケワタガモ、シノリガモも観察できます。また、沖合の岩場でトドを見られるかもしれません。

ゴヴェナ半島のコリヤークスキー保護区への上陸がゾディアック・クルージングを予定しています。ここには沢山のヒグマが生息しています。海岸への上陸は、ヒグマがいるかどうかにかかっています。

第7～9日目 コリヤーク&チュクチ海岸観光

毎日の探検クルーズでは、野生生物を観察して写真を撮るために、辺鄙で滅多に訪れる事のない海岸を探索し複数回上陸を行います。

海岸線はヒグマ、アカギツネ、そして運が良ければビッグホーンとカムチャツカマモットを見ることができ深い森林に覆われたフィヨルドで構成されています。

多くのラグーンと浅い湾にはヒシクイ、コケワタガモ、オバシギ、シロハヤブサ、ヤマヒバリ、ハギマシコなど多種多様な鳥類が生息しています。このエリアはコバシウミズズメの本拠地でもあり、旅の途中で何回か見る事が出来ます。以前の探検クルーズで私たちは、この海岸線の多くを探索し、多くの種の分布と豊富さを記録しました。2011年には、これまで知られていなかったヘラシギの繁殖個体数を記録しました。

バードライフインターナショナルとバードロシアの研究者が私たちと一緒に旅行し、変化を監視し、新しい繁殖コロニーを探します。種の多様性の豊富さを実感するプログラムで、文字通り少数の「西洋人」しか訪れていない地で写真撮影、ハイキング、バードウォッチングなどユニークな機会を提供します。

第10日目 メイヌイピリグイノ観光

40kmの砂利浜に位置するメイヌイピリグイノはヘラシギの繁殖地として世界的に最も重要な場所です。ヘラシギの回復タスクフォース・モニターのメンバーにより15番（つがい）が監視されています。もし可能ならば、そのメンバーに監視している巣の1つに案内してもらえるかもしれません。この地域には他の野生生物も多く生息し、ミカドガン、シロエリオ

オハム、ハシジロアビヤカナダヅルを目にする事ができるかもしれません。ラグーンの入りにゴマフアザラシやコククジラ、シロイルカ、クビカモメが生息しています。

コミュニティは、私どもの来訪をアマチュア・ダンス・グループのダンスで歓迎してくれます。そのコミュニティには、小さいながら素晴らしい博物館もあります。

第11日目 プレオブラゼニヤ湾観光

プレオブラゼニヤ湾ではゾディアッククルーズで壮麗な景色を眺めることができます。高くそびえる花崗岩の崖には、ミツコビカモメ、ツノメドリ、エトピリカ、ハシブトウミガラス、ウミバト、シロカモメ、セグロカモメ、パラキート、エトコフミズズメ、フルマカモメ、タイリクハクセキレイ、ハシボソミズナギドリ、ムネアカタバヒバリなど、何千羽もの鳥類が営巣しています。また、海岸線に頻繁に訪れることで知られるシャチも探索します。

第12日目 イティグラン島とペンキングニー湾観光

イティグラン島にはクジラの骨がビーチに沿って約500mにわたって伸びるホエールボーンアレイ（クジラ骨の小路）として知られる記念碑的な古代の先住民の遺跡があります。貯蔵に使用された多くの肉ピット（穴）や一度にいくつかの先住民の村を統合させた捕鯨キャンプの他の遺跡などがあります。ある場所では巨大なホッキョククジラの頭骨と肋骨が見事なアーチ状と一緒に配置されています。島の周囲ではコククジラが頻繁に見られます。

午後、ペンキングニー湾を訪問する予定です。氷河によって海岸線に切り込まれたこの長いフィヨルドは、ホエールウォッチングの人気スポットです。この風光明媚な場所でヒグマなどの野生生物を探します。

第13日目 プロヴィデニヤ出港

プロヴィデニヤでロシアの通関と出国手続を終えた後、アラスカのノームに向けて出港します。世界で最も栄養豊富な海域の1つであるベーリング海峡は、毎年春に地球上で最大の野生生物の移動シーンが繰り広げられます。シロイルカ、ホッキョククジラ、コククジラ、セイウチ、ワモンアザラシ、そして数多くの海鳥が海峡を頻繁に訪れることが知られているため、野生生物との出会いの機会はたくさんあります。

エクスペディション・チームによるリキャップと下船についての説明会に参加した後、国際日付変更線通過を祝い、そしてフェアウェルディナーをお楽しみください。

※国際日付変更線通過します。

第14日目 ノーム入港／下船、解散

朝食後、米国の通関と入国手続を終えた後、エクスペディション・チームや乗組員に別れを告げて下船です。下船後、ノーム空港又は指定された中央の場所までお送りいたします。

チュクチ半島と世界自然遺産ウランゲリ島探検クルーズ

15日間

世界遺産のウランゲリ島とチュクチ半島を訪れて野生生物と雄大な大自然を見学

チュクチ自治管区は、共和国や州など83の構成主体からなるロシア連邦の1つで、ロシア帝国の探検家セミュン・デジニョフがチュクチ半島を探検し、デジニョフ岬やベーリング海峡を発見後、ロシアの支配下に入ったシベリア最後の地域です。

この地域には、チュクチ、イヌイト、エヴェン、コリヤーク、チュヴァン、ユカギールなどの先住民族が住んでいて、新しい居住者は主にロシア人です。ソビエト時代、先住民族を大切に扱っていましたが、1990年代の共産主義の崩壊で州に依存していた人々にとって危機的状況となりました。2000年12月のチュクチ自治管区の知事選挙で、ロマン・アブラモヴィッチが知事に選ばれ、就任後、今までの歴史を大きく変えました。アブラモヴィッチの未来展望や寛容とリーダーシップにより、人々は希望が与えられ今日のチュクチはロシア連邦の正当な権利を得ています。

天然資源や野生生物は豊富ですが、著しい気候の変動に直面しています。チュクチ海が北極海と合流するチュクチ半島の北には、自然保護区で**世界自然遺産のウランゲリ島**があります。時々、ホッキョクグマ

の分娩室と言われる程、**ホッキョクグマが高密度で生息**しています。夏には、以前にもまして年々、氷の後退が早く、海岸にやってくる多くのホッキョクグマが目撃されています。同様に多くのセイウチもこの島に氷を求めてやってきます。

ハクガンやシロフクロウのような鳥類も繁殖しています。この特別なチュクチ探検クルーズでは、**地元の人々に会い、彼らの話を聞き、この地域の豊かな北極の歴史を発見**します。また、毎年恒例の**ベーリング海峡のレガッタとフェスティバル**では、スリル満点の文化交流を体験する機会もあります。

チュクチ自治区とウランゲリ島では豊富な野生生物、特に**ホッキョクグマ、セイウチ、アザラシ、クジラ**、鳥を探して観察することに時間を費やします。陸上では、**野生の花や矮性の木々が生える広大なツンドラ**を探索し、**ヒグマ、トナカイ、ホッキョクギツネ、ジリス**を観察します。運が良ければ、この本格的な北極圏の探検クルーズ中に、陸上にすむイタチ科の動物の中では最も大きいクズリを見ることができます。

●旅行開始日・旅行終了日・期間・利用客船

旅行開始日～終了日	期間	利用客船
2022年 7月10日(日)～ 7月24日(日)	15日間	ヘリテージ・アドベンチャラー

● 集合地/解散地：ノーム(米国、アラスカ州) / ノーム(米国、アラスカ州)

● 食事条件：朝食14回、昼食13回、夕食14回

●クルーズ代金(大人お一人様)

※単位：米国ドル(US \$)

利用客船	ヘリテージ・アドベンチャラー
旅行開始日	7月10日(日)
旅行終了日	7月24日(日)
期間	15日間
メインデッキ・トリプル(3人部屋)	10,250
スーパーリア・トリプル(3人部屋)	10,775
スーパーリア・デッキ4	12,450
スーパーリア・デッキ5	13,075
ウォースリー・スイート	16,450
ヘリテージ・スイート	23,395
メインデッキ・シングル	15,040
スーパーリア・シングル	15,950
ランディングフィー	500

(備考) ランディングフィーは、ご乗船後、米国ドルの現金でお支払いいただけます。



(備考) 食事欄の「○」は船内食を表します。



※地図はイメージです。

■スケジュール

日次	月日(曜)	日程	食事 朝昼夕	宿泊
1	7/10(日)	午後 夕刻 ヘリテージ・アドベンチャラーに乗船 ノームを出港		○
< 国際日付変更線通過 >				
2	7/12(火)	終日 プロヴィデニヤ寄港	○	○
3	7/13(水)	終日 プレオブラゼニヤ湾観光	○	○
4	7/14(木)	終日 ホエールボーンアレイと ギルミル・ホットスプリングス観光	○	○
5	7/15(金)	終日 ラヴレンチャヤ&デジニョフ岬観光	○	○
6	7/16(土)	終日 コリュチン島&コリュチン入り江観光	○	○
7	7/17(日)	終日 終日航海	○	○
8	7/18(月)	終日 ウランゲリ島観光	○	○
9	7/19(火)	終日 ウランゲリ島観光	○	○
10	7/20(水)	終日 ウランゲリ島観光	○	○
11	7/21(木)	終日 終日航海	○	○
12	7/22(金)	終日 ブルティン湾と無名の湾観光	○	○
13	7/23(土)	終日 ペンキングニー湾とアラカムチェェン島観光	○	○
14	7/24(日)	終日 プロヴィデニヤ寄港	○	○
< 国際日付変更線通過 >				
15	7/24(日)	午前 午後 ノーム入港/下船 ※下船後、空港或いは指定の中心地まで お送りいたします。	○	

(備考) 食事欄の「○」は船内食を表します。



●詳細日程

第1日目 ノーム(米国アラスカ州)乗船/出港

この探検クルーズはアラスカで最も有名なゴールドラッシュの町ノーム発着となります。港に停泊中のヘリテージ・アドベンチャラーにお送りいたしますので、指定された集合場所にお集まりください。(時間と集合場所は、最終書類でご案内いたします)

ヘリテージ・アドベンチャラー乗船後、客室にお入りいただき、探検クルーズ中、我が家となる船内を探検してください。

ロシアのプロヴィデニヤに向けて**ノームを出港**する際には、オブザベーションデッキ又は、オブザベーションデッキからエクスペディション・チームと一緒に出港風景をご覧ください。**※国際日付変更線通過します。**

第3日目 プロヴィデニヤ入港

ロシアの税関と入国管理局を通過した後、この魅力的な旧ソビエト軍の港と行政センターを探索し、午後、探検を行う機会があるかもしれません。

第4日目 プレオブラゼニヤ湾観光

プレオブラゼニヤ湾ではゾディアッククルーズで壮麗な景色を眺めることができます。高くそびえる花崗岩の崖には**ミツユビカモメ、ツノメドリ、エトビリカ、ハシボトウミガラス、ウミバト、シロカモメ、セグロカモメ、パラキート、エトロフウミズメ、フルマカモメ、タイリクハクセキレイ、ハシボトミズナギドリ、ムネアカタヒバリ**など何千羽もの鳥が営巣しています。また、海岸線に頻りに訪ねることで知られる**シャチ**も探します。

第5日目 ホエールボーンアレイとギルミル・ホットスプリングス観光

この日の最初の陸上は、北極圏で最も重要で興味深い遺跡の1つになると予想しています。

イティグラン島にある古代イヌイトの遺跡ホエールボーンアレイ(クジラ骨の小路)は、14世紀にさかのぼるホッキョククジラの頭骨と肋骨で飾られていますが、1976年に発見されました。儀式用地が狩猟キャンプのどちらかだと考えられていましたが、ユネスコの世界遺産申請書が提出され、その文化的重要性が強調されています

午後、**ギルミル・ホットスプリングス**に上陸する予定です。海岸線から歩いてすぐですが、訪れる価値は十分にあります。また、鳥、植物、動物のツンドラを探索するチャンスがあります。温泉に浸かった後、リラックスして夜を過ごすために本船に戻ります。

第6日目 ラヴレンチャヤとデジニョフ岬観光

午前は、美しい**ラヴレンチャヤ湾**に錨を下ろし、歴史的、文化的に豊かな村を探索する予定です。ソビエトが計画したコミュニティは、かつての先住民族の集落で1920年代に地元のチュクチ族とシベリアユピック族の移住が奨励され、行政の中心地として設立されました。ラヴレンチャヤ博物館を訪問する予定です。地元の長老たちに会い、村の広場で本格的な味と村の生活を楽しんでください。

午後、ユーラシア大陸最北東端の**デジニョフ岬**への陸上を予定しています。この岬は、1648年に(ヴィトウス・ベーリングが航海する80年も前に)この海峡を航海した最初のヨーロッパ人でコサックのセミュン・デジニョフの功績を記念しています。岬には灯台、記念碑、国境警備隊の基地の廃墟があります。天候や海の状況が良ければ上陸し、この地域の探索を予定しています。岬のすぐ南には、ナウカンのかつてのイヌイト集落があります。この集落がアラスカに接近しているため、村人たちが、安全上のリスクをもたらす可能性があると考えたソビエト政府は、1950年代にこの集

落の人々をチュクチの集落に強制的に移住させました。住人達は、集落を離れたくなかったため今でも寂しさを感じています。移住はかなり最近の事だったので、集落には、豊富な歴史的データと写真が残っています。

第7日目 コリュチン島とコリュチン入り江観光

今日はコリュチン島とコリュチン入り江を探索します。**コリュチン島**はかつては重要なロシア極地研究基地の場所でしたが、ソ連の崩壊に伴って放棄されました。現在、建物は廃墟と化していますが、科学者が研究した豊富な野生生物はまだそこにいます。島の北西端にある研究基地の近くには、北極で最も素晴らしいバードクリフがいくつかあります。**ツノメドリ、ウミスズメ、カモメ、鵜**がわずか数m先で観察や写真撮影をする事ができます。人目を引く**セイウチ**のホールアウトは、南東端に多く、セイウチがいる場合、ゾディアックボートから素晴らしい写真撮影ができるチャンスがあるかも知れません。

コリュチン入り江の河口近くにあるベラカ・スピット(砂州)も訪れる予定です。衛星写真から見えるほど巨大で、そこには**膨大な数の水鳥と渡り鳥**がいます。この野生の荒涼とした風景は、奇妙なほど美しいバードウォッチングのホットスポットです。ベリンジア国立公園のレンジャーが加わり、砂丘と潮汐地域でミカドガンを探す予定です。運が良ければ、その海域を頻りに回遊する**コククジラ**が採餌活動を行っているかも知れません。

第8日目 終日航海

海氷に沿って航海します。エクスペディション・チームと一緒にホッキョクグマを探して、ブリッジや屋外デッキで時間を過ごしたり、写真のダウンロードなどでお過ごしください。



●詳細日程 (続き)

第9~11日目 ウランゲリ島観光

氷と気象条件が許せばウランゲリ島を探索する予定です。現在のウランゲリ島は国際的に重要なロシア連邦自然保護区です。その重要性の多くは、ホッキョクグマの主要な住処であるという事実にあります。実際、そこで生まれた子グマの数が多いことから、「世界のホッキョクグマの産科病棟」と呼ばれることもあります。また、北にやってくる渡り鳥の最後の目的地でもあります。

毎年夏にはハクガン、シロフクロウ、トウゾクカモメ、キョクアジサシなど、何千羽もの鳥がここに移動して繁殖します。野生生物、野生の花々、北極の風景を探し出す多くの上陸地があります。ホッキョクグマは私たちが見たい動物のリストの上位にあり、少しの忍耐で私たちは多くのホッキョクグマを観察できるはずですよ。

第12日目 終日航海

ウランゲリ島から南に向けて航海します。海象と氷の状態によって針路と航海速度が決まりますが、もし流氷の中を航行するようであればホッキョクグマ、セイウチ、ワモンアザラシが見られる可能性があるため、参加者は、屋外デッキで観察する事をおすすめ致します。チュクチ海岸に近づくにつれ、よく見られるザトウクジラやコククジラに目を光らせてください。この海域ではホッキョククジラも良く見られます。

第13日目 プルティン湾と無名の湾観光

朝、プルティン湾でゾディアック・クルージングを楽しむチャンスがあるかも知れません。狭い入り口を抜けると、めったに訪れる事のない保護された湾が開き、新しい世界が明らかになります。海岸線や野生の花々が咲き誇る大地を探索したり、野生動物を探したり、尾根をハイキングしたりして印象的な景色を眺めることができます。

午後は、近くの絵のように美しい無名の湾の探索を予定しています。ゾディアックボートで岸へ移動すると、広大なビーチに迎えられ、背後にはラグーンと険しい丘に囲まれている美しい場所です。海岸やツンドラに沿って野生動物を探してウォーキングや、近くの山頂に登って、素晴らしい景色をお楽しみください。

第14日目 ベンキングニー湾とアラカムチェチェン島観光

氷河によって海岸線に切り込まれた長いフィヨルドで、ホエールウォッチングの人気スポットでもあるベンキングニー湾にゾディアックボートで上陸する予定です。ここでは、小さな網状河川、柳の茂みがちりばめられた砂利のベッドが、私たちが上陸する海に向かって曲がりくねっています。風光明媚な場所を探索して、ホッキョクジリスとナキウサギ、カラフトライチョウ、カナダヅル、鮭で満たされた川とベリーに魅了されたヒグマを探します。

午後は、チャプリノ岬のすぐ北で幅8kmのセ

ニャヴィナ海峡によってチュクチ本土から隔てられているアラカムチェチェン島へのクルーズを予定しています。以前、ここでコククジラが採餌行動をするのを見たことがあります。海峡を航行する際には、ゆっくりと進みますので、デッキに出て観察することをお勧めします。アラカムチェチェン島では、緑豊かなツンドラを探索します。

第15日目 プロヴィデニヤ出港

この魅力的な旧ソビエト軍の港と行政の中心地を探索する機会があります。プロヴィデニヤでロシアの通関と出国手続を終えた後、アラスカのノームに向けて出港します。世界で最も栄養豊富な水域の1つであるベーリング海峡は、毎年春に地球上で最大の野生生物の移動シーンが繰り広げられます。シロイルカ、ホッキョククジラ、コククジラ、セイウチ、ワモンアザラシ、そして数多くの海鳥が海峡を頻りに訪れることが知られているため、野生生物との出会いの機会はたくさんあります。エクスペディション・チームによるリキヤップと下船についての説明会に参加した後、国際日付変更線通過を祝い、そしてフェアウェルディナーをお楽しみください。

※国際日付変更線通過を通過します。

第15日目 ノーム(米国アラスカ州)入港/下船

朝、ノームに入港します。朝食後、米国の通関と入国手続を終えた後、下船します。下船後、ノーム空港又は、指定された町の中心地までお送りいたします。

極東ロシアの宝石探検クルーズ

21日間

チュクチ半島とカムチャツカ半島、そして千島列島を訪れる

ロシアの東海岸は北太平洋を支配していますが、それを知っている人、まして体験したことがある人はほとんどいません。この孤立によって大自然と野生生物という最も貴重な財産が守られているのです。

冷戦時代、この地域は重要な「フロンティアゾーン」とみなされていたため、外国人は立ち入ることができず、ロシア人であっても特別な許可を得なければ渡航できませんでした。これらの制限は1991-92年のペレストロイカまで続きましたが、現在でも交通の不便さは以前とあまり変わっていません。

この地域には、殆ど人間が住んでおらず、州が補助金を出して作った交通システムも崩壊してしまいました。老朽化した飛行機や船舶を整備する資金も財源もありません。この地域を旅行する事が出来るのは、経済的に余裕のあるごく一部のの人々に限られています。そのため、この地域の旅行は探検クルーズが最適なのです。

冬の海岸線は海水で覆われ立ち入りが出来なくなります。この地域を訪れる事が出来るのは春から初秋までになります。9月には、何千羽もの鳥が餌を求めてここに渡ってきて、そして飛び立つ準備をします。トナカイとシベリアビッグホーンは厳しい冬に備えて餌を食み、初夏にベリーを大量に食べ、川や小川でサケを食べて太ったヒグマは夏の終わりの日差しを楽しんでいます。晩夏や初秋は野生生物を探索するには素晴らしい季節です。秋の始まりは、ツンドラが色鮮やかに変わり、完璧な絵葉書のような景色を作りあげます。

今回の探検クルーズでは、アラスカのノームから北海道の小樽まで遠隔の海岸線に沿って多くの場所に上陸しますので、大自然の美しい景色を発見できるでしょう。河口やフィヨルド、湾や島などあまり人々が訪れないような場所を選び、自然史の熱狂者や写真家、歴史学者、旅行者に最もユニークな機会を提供します。

●旅行開始日・旅行終了日・期間・利用客船

Table with 3 columns: 旅行開始日～終了日, 期間, 利用客船. Content: 2022年 9月 4日(日)～ 9月25日(日), 21日間, ヘリテージ・アドベンチャラー

● 集合地/解散地: ノーム(米国、アラスカ州) / 小樽(日本)

● 食事条件: 朝食20回、昼食19回、夕食20回

●クルーズ代金(大人お一人様) ※単位: 米国ドル (US \$)

Table with 2 columns: 利用客船, 代金. Rows include cabin types like 'メインデッキ・トリプル(3人部屋)' and 'ランディングフィー'.

(備考) ランディングフィーは、ご乗船後、米国ドルの現金でお支払いいただきます。



※地図はイメージです。

■スケジュール

Large table with columns: 日次, 月日(曜), 日程, 食事(朝食/昼/夕), 宿泊. It details the daily itinerary from 9/4 to 9/25.

(備考) 食事欄の「○」は船内食を表します。





● 詳細日程

第1日目 ノーム到着／出港

この探検クルーズは、アラスカで最も有名なゴールドラッシュの町ノームから出港します。港に停泊中のヘリテージ・アドベンチャーにお送りいたしますので、指定された集合場所にお集まりください。(時間と集合場所は、最終書類でご案内いたします)。

ヘリテージ・アドベンチャーにご乗船後、キャビンにお入りいただき、探検クルーズ中、我が家となる船内を探検してください。ロシアのプロヴィデニヤに向け**ノームを出港**します。エクスペディション・チームと一緒にオブザーバシラウンジ又は、オブザーベーションデッキから出港風景をご覧ください。※国際日付変更線を通過します。

第2日目 プロヴィデニヤ寄港

ロシアの通関と入国手続を終えられた後、この魅力的な旧ソビエト軍の港と行政センターを探索します。午後、探検を行う機会があるかもしれません。

第3日目 ラヴレンチャとデジニョフ岬観光

朝、ユーラシア大陸最北東端の**デジニョフ岬**への上陸を予定しています。この岬はヴィトゥス・ベーリングが航海する80年も前の1648年に、この海峡を航海した最初のヨーロッパ人でコサックのセモン・デジニョフの功績を記念しています。岬には灯台、記念碑、国境警備隊の基地の廃墟があります。天候や海象の状況が良ければ上陸し、この地域の探検を予定しています。

デジニョフ岬から南へ数kmにあるチュクチ族、ユピク族、ロシア人の故郷である**ラヴレンチャ集落**を訪れます。ここでロシアの開発は1920年代後半に始まりましたが、ラヴレンチャはずっと前から先住民の居住地でした。町の広場を探検し、地元の珍味を試食し、フレンドリーな地元の人々と伝統的な文化的パフォーマンスを体験します。

第4日目 イティグラム島とペンキングニー湾観光

イティグラム島にはクジラの骨がビーチ沿いに約500mにわたって伸びる**ホエールボーンアレイ**(クジラ骨の小路)として知られる記念碑的な古代の先住民の遺跡があります。貯蔵に使用された多くの肉ビット(穴)や一度にいくつかの先住民の村を統合させた捕鯨キャンプの他の遺跡などがあります。ある場所では、巨大なホッキョククジラの顎骨と肋骨が見事なアーチ状と一緒に配置されています。島の周囲では、コククジラが頻繁に見られます。

午後、私たちは**ペンキングニー湾**を訪れる予定です。氷河によって海岸線に切り込まれた

この長いフィヨルドは、**ホエールウォッチング**の人気スポットです。この風光明媚な場所では**ヒグマ**などの野生生物を探します

第5日目 終日航海

アナディリ湾を航海する際、専門講師によるレクチャーを聴講したり、デッキからクジラやセイウチを探索したり、バーでリラックスしたり、写真のダウンロードや編集などでゆっくりお過ごしください。

第6日目 ガブリエル湾とピカ川観光

この海岸線は海洋哺乳類が豊富です。特に私たちが探している生き物の1つは**セイウチ**です。私たちは過去にここでセイウチを見る事ができましたが、動物は定期的に場所を移動するので、セイウチを見つけることは運次第の可能性がります。**ガブリエル湾**を探索する予定です。ガブリエル湾は、最初のカムチャツカ探検でヴィトゥス・ベーリング司令官の船であるセント・ガブリエル号にちなんで名付けられました。広大なビーチの背後にはラグーンがあり、チュクチ最古の、そして現在は廃墟となっている北極圏で最南端の気象観測所を訪れることもできます。ナバリン岬周辺は潮の干満差が激しいため、ここは餌が豊富で、この海域にたくさんの海鳥やコククジラが集まってきます。

午後、私たちは**ピカ川のデルタ地帯**を訪れる予定です。ここは、セイウチの有名なホールアウト(南部地域の数千の頭のセイウチがビーチで休んでいる)が見られる数少ない場所の1つです。

第7日目 ナタリイ湾観光

コリヤーク海岸に沿って多くの美しいフィヨルドがありますが、**ナタリイ湾**ほど美しい場所はありません。このフィヨルドは、南から流れ出す2つのフィヨルドから成っています。この2つのフィヨルドの名前は、ヴィトゥス・ベーリングが、1740年の秋、オホーツクから出発した2度目の探検の際に使用した探検船「セント・ビートル号」と「セント・パウロ号」に因んで名付けられました。パヴラ湾までクルーズし、上陸を予定します。壮大な山の風景とツンドラの植生が私たちを取り囲み、この地域でよく見られる**シベリアビッグホーン**を目撃できる可能性もあります。これらのフィヨルドの入り口を守るように位置している**ボゴスロバ島**には**セイウチ**のホールアウトがあります。

第8日目 ティンティクン・ラグーン観光

ゴベナ半島南部の殆どは国立保護区に指定されています。野生生物が豊富でめったに訪れることのないこの場所は、滝が谷を転がり落ちるようにギザギザの山と崖に囲まれ、**カ**

ムチャツカヒグマ、**オオワシ**、**ゴマファザラシ**が生息しています。ゾディアッククルーズでは、数多くの野生生物との出会いを楽しみ、この地域で最も壮麗なフィヨルドの1つである**ティンティクン・ラグーン**での探検を予定しています。このフィヨルドは、氷河期の最後の期間に大きなターミナルモレーン(氷河の末端部に形成されたモレーン)によって堰き止められました。ギザギザの山々や氷河、森林に覆われた斜面に囲まれた川がモレーンを突き破り、最も美しい場所の1つにアクセスできるようになりました。ゾディアックボートでラグーンの数が所に上陸しながら、**ホシガラス**、**ムシクイ**類、**ノゴマ**、**ヤマヒバリ**などを見学します。また、ラグーンの上流に流れ込む河口周辺には**ヒグマ**の大きな個体群が生息しています。

第9日目 ヴェルホトゥロヴァ島観光

ヴェルホトゥロヴァ島には、いくつかの巨大な海鳥のコロニーがあり、崖の頂上まで、距離は短いですが急な坂道を登って近づけます。**エトピリカ**、**ハシブトウミガラス**、**ヒメウ**、**ミツユビカモメ**を見る事ができるはずですが、また、**トド**が沖合の岩場でホールアウトしていますので、見られるかも知れません。

第10~11日目 コマンドルスキー諸島観光

コマンドルスキー諸島はベーリング島とメードヌイ島の2つの大きな島とアリー岩礁やトボルコフ島など15の小さな島々から成り、アリューシャン列島の西端に位置しています。私達は、上陸とゾディアッククルージングでこれらの島々を探検する予定です。

1741年に探検船がここで難破した時に、この諸島を発見するという不幸に見舞われたベーリング司令官に因んで名付けられたベーリング島の沖合に投錨し、私たちはコマンドル湾を探索する予定です。この辺鄙な土地で、長く寒い冬の間に命を落としたベーリングと彼の隊員の墓に歩いて行き、彼らが避難所を探していた場所を訪れます。生き残って帰還を果たした乗組員の報告から「毛皮の乱獲」に火を点けることになり、加えてロシアのアラスカ進出のきっかけとなりました。

諸島で唯一の集落、**ニコルスコエ村**を訪れた後、**ノースウェスト岬のオットセイの繁殖地**を訪れます。また、**アリー岩礁**ではゾディアックゾディアッククルージングで**海鳥の営巣地**を見学する予定です。近くの歴史的で雰囲気のある**メードヌイ島**では1800年代に絶え間なく狩猟された後、絶滅の危機に瀕した**タイヘイヨウラッコ**など、この魅力的な野生生物や風景を探索します。

第12日目 オルガ湾とジュパノバ川観光

オルガ湾は非常に大きなクロノツキー自然



保護区の一部で、世界的に有名な間欠泉地帯もあります。ここは私達がこれまで探検してきたものとは全く異なり、緑豊かなカムチャツカの森が海岸まで続いています。ここでは**複数の鳥類**や**ヒグマ**などが見られる可能性があります。オルガ湾周辺海域には、多くの**コククジラ**が回遊しています。コククジラは、時々ボートに近寄ってきます。もし、条件が良ければゾディアックボートでホエールウォッチングを予定しています。この背景にそびえる火山は、本物のカムチャツカの荒野を探索するための素晴らしい環境を提供しています。

午後、ゾディアックボートで**ジュパノバ川**をクルーズします。この旅では、カムチャツカの一般的な川の生息地を探索することが可能です。カムチャツカ半島の1,800以上の河川は、多種多様な野生生物を支える重要な生態系を成しています。カムチャツカ半島の天然資源の1つである鮭の産卵にとって特に重要です。**オオワシ**は川の下流に営巣することが知られており、多くの幼鳥と数羽の成鳥がまだ巣の周りに止まっているのを目にする可能性があります。

第13日目 ルースカヤ湾(カムチャツカ半島)観光

天気が良ければ**ルースカヤ湾**を航行する際、カムチャツカ半島南部の雪に覆われた火山の素晴らしい景色が私たちを迎えてくれます。カムチャツカ半島の南端から北に約80kmの孤立したフィヨルドの入り口近くで**マダラウミズメ**と**絶滅危惧種のコバシウミズメ**が目撃されています。**ラッコ**、**ゴマファザラシ**、**トド**、**シャチ**を見る絶好のチャンスもあります。フィヨルドに上陸する予定です。

夜間に、本船は世界最大の自然港の1つであるアバチャ湾に入ります

第14日目 ペトロパブロフスク・カムチャツキー観光

カムチャツカ地方の首府として、カムチャツカ半島全体の行政の中心となっている**ペトロパブロフスク・カムチャツキー**で一日過ごします。この町は1740年からの2度目の探検中にヴィトゥス・ベーリング司令官によって設立されました。冷戦中、ここは大きな潜水艦基地などソ連海軍太平洋艦隊の重要な軍港でした。この都市と周辺地域は1992年まですべての外国人の立ち入りが禁止され閉鎖都市となりました。

(備考) ペトロパブロフスク・カムチャツキーではクルーズ代金に含まれているツアーに参加するか、或いは別途追加代金でカムチャツカの至宝と呼ばれる世界で2番目に大きい間欠泉フィールド「ゲイゼル渓谷へのヘリコプターツアー」をお楽しみいただけるオプションツアーがあります。

第15日目 プティチ・ロックとアトラソフ島(旧阿頼度島)観光

朝早く、野生生物が豊富な**プティチ・ロック**または**バード・ロック**に到着します。たくさんの鳥類、**アザラシ**、**ラッコ**が生息するこれらの魅力的な岩層をゾディアッククルーズをする予定です。ラッコはほぼ絶滅の危機に瀕していましたが、今では過去の3分の2まで回復しています。また、**エトピリカ**の個体群と同様に**ゼニガタアザラシ**と**ゴマファザラシ**がよく見られます。

シュムシ島(旧占守島)とパラムシル島(旧幌筵島)間の**第二クリル海峡**を航行して**アトラソフ島**(旧阿頼度島)に向かう予定です。この島には、この群島で最高峰の火山、アライド山(標高2339m)が聳えています。

第16日目 オネコタン島観光

平地と千島列島の一部で結ばれた2つの成層火山からなる無人島の**オネコタン島**に上陸する予定です。島を探索すると、第二次世界大戦中に日本人によって建てられた要塞跡が残っています。

第17日目 シムシル島とヤンキチャ島観光

早めの朝食後、ゾディアックボートで**シムシル島**の北端にある広大なカルデラ湖をクルーズする予定です。ほんの四半世紀前までソ連海軍の潜水艦艦隊の秘密基地で、多くの船員が働いていました。冷戦時代の記憶は今や完全に忘れ去られ、草木に覆われた基地跡を散策する事ができます。この巨大なカルデラ湖の見事な環境の中で、さまざまな種を見つけることが期待できます。最も一般的な鳥の1つは、見事なノゴマの可能性が高く、雑木林の上で、さえずっているのを見ることができます。

午後、水没した火山の頂上(カルデラ湾)である**ヤンキチャ島**へのクルーズを計画しています。ここで繁殖する**ウミズメ**の数は本当に信じられないほど多く、この探検クルーズでのハイライトの1つです。天候や海象の状況に応じてゾディアックボートで海岸線の一部を一周しながらカルデラ湾に入ります。ここで**エトロフウミズメ**と**シラヒゲウミズメ**の集団は単に壮観であり、**ハシブトウミガラス**と**ウミガラス**、そして**エトピリカ**と**ツノメドリ**の両方を観察出来る事が期待できます。また、次の食事を探して**ウミズメ**のコロニーをうろついている好奇心旺盛なホッキョクギツネを見る絶好のチャンスがあります。

夕方遅くに船に戻る頃、**ウミズメの群**が空を真っ黒に覆い尽くすようにコロニーに戻るさまは、決して忘れる事の出来ない体験となることでしょう。

第18日目 チルボイ島とウループ島観光

繁殖する海鳥に覆われた劇的な岬がいくつもある**チルボイ島**沖に投錨する予定です。**ミツユビカモメ**と**ハシブトウミガラス**はここで見られる可能性が高い種の1つです。ウループ島に向けて南に航海する際、本船から**マッコウクジラ**と**シャチ**を観察できる絶好のチャンスです。この海域では**コアホウドリ**、**マダラウミズメ**、**ハシブトウミガラス**、**エトロフウミズメ**、**ウトウ**、**エトピリカ**などがよく見られます。

ウループ島では低木に覆われた森を探索します。海岸などに打ち上げられた漂着物を収集したり観察したりするビーチコーミングやウォーキングで**ゴマファザラシ**や**ゼニガタアザラシ**、**ラッコ**が見られる可能性がありますのでここでは非常にやりがいがあります。

第19日目 イトゥルップ島(択捉島)観光

朝食後、ゾディアックボートでクリル管区の行政府の中心である**クリリスク**に上陸し地元のバスに乗り換え、**イトゥルップ島の火山高原**に行きます。途中、壮観な風景を堪能します。標高が高く植生が異なるため、これまで見てきた風景とは対照的です。バランスキー火山では、天然温泉に浸る機会あるかも知れません。再び、クリリスクに戻ったら、エクスペディションガイドと一緒にネイチャーウォークで村を探索したり、さらにバードウォッチングをしたりするチャンスがあります。

第20日目 コルサコフ(サハリン島)寄港

サハリン島の**コルサコフ港**に入港し、ロシアの通関と出国手続を行います。今夜は、フェアウェルディナーとこれまでの探検クルーズを振り返ります。

第21日目 小樽入港／下船

朝、北海道の港街、**小樽**に入港します。小樽は、ガラス細工、オルゴール、酒の蒸留所、そして、1920年代に建てられた倉庫を再利用したショップやカフェが並び、絵のように美しい小樽運河で知られています。

朝食をとり、日本の入国と税関手続を終えた後、市内中心部のホテル又は、札幌空港まで無料送迎バスでお送りいたします。

(ご案内) 入国手続き等に時間を要する事がありますので、下船当日、引き続きご旅行を続けられるお客様は、13時00以降に出発するフライトを予約する事をお勧めいたします。

世界自然遺産ウランゲリ島と北極探検クルーズ

15日間

ベーリング海峡を越えてホッキョクグマと野生生物の宝庫へ

この旅では北極圏を横断し、孤立した手付かずのウランゲリ島とヘラルド島、そして野生の東北シベリアの海岸線を訪れます。

この探検クルーズは、この地域の政治の融解とチュクチ海の夏の流水の後退によって近年可能になった旅です。この国境地帯に沿ったロシアとアメリカの間の非常に短い距離は、氷のカーテンとして知られており、その背後には当時も今も、世界で最後の未発見の原野地域の1つがあります。

ロシアとアメリカ合衆国を隔てる狭いベーリング海峡を通過し、チュクチの海岸線に沿って西に移動してから、デロング海峡を横断してウランゲリ島に向かいます。**ウランゲリ島では地元のレンジャーの指導の下、自然保護区で4〜5日間過ごします。**最終氷期に氷河の影響を受けなかったこの島は、**北極圏の生物多様性の宝庫**であり、ここで繁殖する**ホッキョクグマの群れ**はおそらく最もよく知られています。この美しい動物を垣間見ることができれば幸いです。島はまた、**タイハイヨウセイウチの世界最大の個体数**を誇り、コクジラの主要な餌場の近くにあり、メキシコのバハにある繁殖地から数千キロ北に移動してきます。トナカイ、ジャコウウシ、ハ

クガンは通常、さらに内陸で見られます。近くのヘラルド島にある巨大なバードクリフの訪問も予定しています。

更新世の時代からの豊かで多様な遺物である「巨大な草原」の植生複合体は、400を超える植物種を育む崇高な美しさです。固有の植物種の数と種類、植物群落内の多様性、比較的最近のマンモスの牙と頭蓋骨の存在、小さな地理的空間におけるさまざまな地形と地層は、ウランゲリ島の豊かな自然史と北極圏におけるその独特の進化的地位のすべてが目に見える証拠です。

ウランゲリ島の人類の歴史は魅力的です。ハイライトには、クラッソン湾にある3,400年前のパレオエスキモーキャンプ、島の発見と所有権をめぐる論争、カールークの生存者の驚くべき物語、島のヒロインであるエイダ・ブラックジャック (Ada Blackjack)、ソビエトの占領と軍事化。そして最近では、この世界クラスの自然保護区の設立などがあります。エクスペディション・チームがガイド付きのウォークキングやゾディアッククルーズにご案内し、このユニークな北極圏の風景をより理解するのに役立つレクチャーを行います。

●旅行開始日・旅行終了日・期間・利用客船

旅行開始日～終了日	期間	利用客船
2022年 7月24日(日)～ 8月 7日(日)	15日間	ヘリテージ・アドベンチャー
// 8月 7日(日)～ 8月21日(日)	15日間	ヘリテージ・アドベンチャー
// 8月21日(日)～ 9月 4日(日)	15日間	ヘリテージ・アドベンチャー

● 集合地/解散地：ノーム(米国、アラスカ州) / ノーム(米国、アラスカ州)

● 食事条件：朝食14回、昼食13回、夕食14回



※地図はイメージです。

●クルーズ代金(大人お一人様)

※単位：米国ドル(US \$)

利用客船	ヘリテージ・アドベンチャー		
旅行開始日	7月24日(日)	8月 7日(日)	8月21日(日)
旅行終了日	8月 7日(日)	8月21日(日)	9月 4日(日)
期間	15日間		
メインデッキ・トリプル(3人部屋)	11,450	11,450	11,450
スーパーリア・トリプル(3人部屋)	11,950	11,950	11,950
スーパーリア・デッキ4	14,475	14,475	14,475
スーパーリア・デッキ5	15,075	15,075	15,075
ウォースリー・スイート	20,950	20,950	20,950
ヘリテージ・スイート	28,950	28,950	28,950
メインデッキ・シングル	16,975	16,975	16,975
スーパーリア・シングル	17,950	17,950	17,950
ランディングフィー	500	500	500

(備考1) ランディングフィーは、ご乗船後、米国ドルの現金でお支払いいただきます。

■スケジュール

日次	日程	食事 朝昼夕	宿泊
1	午後 夕刻 ヘリテージ・アドベンチャーに乗船 ノームを出港 ＜国際日付変更線通過＞		船中
2	午前 プロヴィデニヤ寄港	○●○	船中
3	終日 イティグラン島、ギルミル・ホットスプリングス観光	○●○	船中
4	終日 ブルティン湾とデジニョフ岬観光	○●○	船中
5	終日 コリュチン島とコリュチン入り江観光	○●○	船中
6	終日 ウランゲリ島とヘラルド島観光	○●○	船中
7	終日 ウランゲリ島とヘラルド島観光	○●○	船中
8	終日 ウランゲリ島とヘラルド島観光	○●○	船中
9	終日 ウランゲリ島とヘラルド島観光	○●○	船中
10	終日 ウランゲリ島とヘラルド島観光	○●○	船中
11	終日 北シベリア海岸観光	○●○	船中
12	終日 名前のない湾とラヴレンチャ観光	○●○	船中
13	終日 ペンギンニー湾とアラカムチェチェン島観光	○●○	船中
14	終日 プロヴィデニヤ寄港 ＜国際日付変更線通過＞	○●○	船中
15	朝 午前 ノーム入港/下船 ※下船後、空港或いは、指定された中心地までお送りいたします。	○●○	

(備考) 食事欄の「○」は 船内食を表します。

●詳細日程

第1日目 ノーム(米国アラスカ州)乗船/出港

この探検クルーズはアラスカで最も有名なゴールドラッシュの町ノーム発着となります。港に停泊中のヘリテージ・アドベンチャーにお送りいたしますので、指定された集合場所にお集まりください。(時間と集合場所は、最終書類でご案内いたします)

ヘリテージ・アドベンチャーご乗船後、キャビンにお入りいただき、探検クルーズ中、我が家となる船内を探検してください。ロシアのプロヴィデニヤに向けて**ノームを出港**する際にはオプザベシラウンジ又はオプザベシオンデッキからエクスペディション・チームと一緒に出港風景をご覧ください。

※国際日付変更線を通ります。

第3日目 プロヴィデニヤ入港

ロシアの税関と入国手続を終えた後、この魅力的な旧ソビエト軍の港と行政センターを探検します。午後、探検を行う機会があるかもしれません。

第4日目 イティグラン島とギルミル・ホットスプリングス観光

イティグラン島にはクジラの骨がビーチに沿って約500mにわたって伸びる**ホエールボーンアレイ**(クジラ骨の小路)として知られる記念碑的な古代の先住民の遺跡があります。貯蔵に使用された多くの肉ビット(穴)や一度にいくつもの先住民の村を統合させた捕鯨キャンプの他の遺跡などがあります。ある場所では、巨大なホッキョククジラの顎骨と肋骨が見事なアーチ状に一緒に配置されています。島の周囲では**コクジラ**が頻繁に見られます。ホエールボーンアレイに上陸した後、ゾディアックボートで**ホエールウォッチング**にご案内いたします。

今日の午後、**ギルミル・ホットスプリングス**に上陸する予定です。海岸線から歩いてすぐですが、訪れる価値は十分にあります。私たちが行ったり来たりしながら、鳥、植物、動物のツンドラを探検するチャンスがあります。温泉に浸かった後、リラックスして夜を過ごすために本船に戻ります。

第5日目 ブルティン湾とデジニョフ岬観光

今朝、**ブルティン湾**でゾディアックサファリを楽しむチャンスがあるかも知れません。その狭い入り口を越えて、この保護された、めったに訪れる事のない湾が開き、新しい世界が明らかになります。海岸線や野生の花々が咲き誇る大地を探検したり、野生動物を探したり、尾根をハイキングしたり、高台から印象的な景色を眺めることもできます。

午後、ユーラシア大陸の最北端の**デジニョフ岬**への上陸を予定しています。この岬は1648年に(ヴィトゥス・ベーリングが航海する80年前に)、この海峡を航海した最初のヨーロッパ人でコサックのセミヨン・デジニョフの功績を記念しています。岬には灯台、記念碑、国境警備隊の基地の廃墟があります。天候や海の状況が良ければ上陸し、この地域の探検を予定しています。岬のすぐ南にはナウカンのかつての**イヌイト集落**があります。この集落がアラスカに接近しているため、村人たちが安全上のリスクをもたらす可能性があると考えたソビエト政府は、1950年代にこの集落の人々をチュクチの集落に強制的に移住させました。住人達は、集落を離れたくなかったため今でも寂しさを感じています。移住はかなりの最近の事だったので、集落には、豊富な歴史的データと写真が残っています。

第6日目 コリュチン島とコリュチン入り江観光

コリュチン島はかつては重要なロシア極地研究基地の場所でしたが、この小さな島はその後、ソ連の崩壊に伴って放棄されました。現在、建物は廃墟と化していますが、科学者が研究した豊富な野生生物はまだそこにいます。島の北西端にある研究基地の近くには、北極で最も素晴らしいバードクリフがいくつかあります。**ツノメドリ、ウミスズメ、カモメ、鶉**がわずか数m先で観察や写真撮影をする事ができます。人目を引くセイウチのホールアウトは南東端に多く、セイウチがいる場合、ゾディアックボートから素晴らしい写真撮影ができるチャンスがあるかも知れません。

また、**コリュチン入り江**の河口近くにあるベラカ・スピット(砂州)も訪れる予定です。衛星写真から見るほど巨大で、そこには**膨大な数の水鳥と渡り鳥**がいます。この野生の荒涼とした風景は、奇妙なほど美しいバードウォッチングのホットスポットです。ペリンジア国立公園のレンジャーが加わり、砂丘と潮汐地域でミカドガンを探す予定です。運が良ければ、その海域を頻りに回遊する**コクジラ**が採餌活動を行っているかも知れません。

第7~11日目 ウランゲリ島とヘラルド島観光

氷と気象条件が許せば、今後数日間は**ウランゲリ島**を探検する予定です。可能であれば、近くの**ヘラルド島**も訪れる予定です。

ウランゲリ島は訪れる価値のある島の1つです。人類の最も初期の職業は紀元前3200年で、彼らはシベリアからの季節的なハンターであったことが立証されています。島の存在は初期のロシアの探検家によって推測され、地図上にマークされていましたが、イギリス軍によって「再発見」されたのは1849年のことでした。カナダの探検隊は、恒久的な入植地を確立し、カナダのために島の所有を主張しようとしたが、島の所有権を持っていたロシア人によって追い出されました。

今日、ウランゲリ島は国際的に重要なロシア連邦自然保護区です。その重要性の多くは、それが**主要なホッキョクグマの住処**であるという事実にあります。実際、そこで生まれた子グマの数が多くことから、「世界のホッキョクグマの産科病棟」と呼ばれることもあります。また、北にやってくる渡り鳥の最後の目的地でもあります。毎年夏には**ハクガン、シロフクロウ、トウソクカモメ、キョウアジサシ**など、何千羽もの鳥がここに移動して繁殖します。野生生物、野生の花、北極の風景を探し出す多くの上陸地があります。ホッキョクグマは私たちが見たい動物のリストの上位にあり、少しの忍耐で私たちは多くのホッキョクグマを観察できるはずで、トナカイの数は少ないものの、ジャコウウシとトナカイは、それぞれ1975年と1948年に島に導入されました。また、1914年に氷に砕かれたカーラック号の生存者が岸辺に急いでよじ登り、救助されるまで住んでいたドラギ港を訪れる機会もあります。氷の状態が許せば、ウランゲリ島の東にあるヘラルド島も訪れて探検する予定です。

第12日目 北シベリア海岸観光

北シベリアの海岸は地図や海図もありますが、ここでの探検クルーズは殆ど行われる事がないため、探検の際に上陸できる余地がたくさんあります。天候や海象の状況にもよりますが、本日は探検上陸(エクスペディション・ランディング)を試みます。動物がいる可能性は、特定の季節だけ**大きなセイウチのホールアウト**がある**ヴァンカレム岬**をなどいくつかの選択肢があります。

もう一つは多数の沿岸ラグーンと入り江のある砂州に囲まれている岬周辺の地域です。近くには小さなチュクチ族の村があり、その住民は今でもセイウチ、アザラシ、クジラを狩りながら生きています。もう1つの選択肢はヴァンカレム岬の西にあるピンゴピキナラグーンの入りの砂嘴(さし)にあるチュクチ族の村ヌチペリメンです。

第13日目 名前のない湾とラヴレンチャ観光

絵のように美しい**無名の湾**をゾディアックボートでクルーズする予定です。広大なビーチに迎えられ、ラグーンに支えられ、険しい丘に囲まれているので、たくさんの発見があります。ビーチやツンドラに沿って野生動物を探しながら散策を楽しんだり、近くの山頂の1つに登って素晴らしい景色を眺めたりしてください。

午後、美しい**ラヴレンチャ湾**に錨を下ろし、歴史的、文化的に豊かな村を探検する予定です。かつての先住民の集落であったこのソビエト計画のコミュニティは、1920年代に、地元のチュクチ族とシベリアユピック族の移住が奨励された行政の中心地として設立されました。町の広場を探検し、地元の珍味を試食し、フレンドリーな地元の人々と伝統的な文化的パフォーマンスを体験します。

第14日目 ペンギンニー湾とアラカムチェチェン島観光

氷河によって海岸線に切り込まれた長いフィヨルドで、ホエールウォッチングの人気スポットである**ペンギンニー湾**にゾディアックボートで上陸する予定です。ここでは小さな網状河川、柳の茂みがちりばめられた砂利のベッドが、私たちが上陸する海に向かって曲がってくねっています。風光明媚な場所を探検し、**ホッキョクジリスとナキウサギ、カラフトライチョウ、カナダヅル、鮭**で満たされた川とベリーに魅了されたヒグマを探します。

午後、チャプリノ岬のすぐ北で幅8kmのセニャヴィナ海峡によってチュクチ本土から隔てられている**アラカムチェチェン島**へのクルーズを計画しています。以前、ここでコクジラが採餌行動をするのを見たことがありますが、海峡を航海する際には、ゆつくりと進みますので、デッキに出て観察することをお勧めします。アラカムチェチェン島では緑豊かなツンドラを探検します。

第15日目 プロヴィデニヤ出港

この魅力的な旧ソビエト軍の港と行政の中心地を探検する機会があります。プロヴィデニヤでロシアの税関と出国手続を終えた後、アラスカのノームに向けて出港します。世界で最も栄養豊富な水域の1つであるベーリング海峡は、毎年春に地球上で最大の野生生物の移動シーンが繰り広げられます。**シロイルカ、ホッキョククジラ、コクジラ、セイウチ、ワモンアザラシ、そして数多くの海鳥**が海峡を頻りに訪れることが知られているため、野生生物との出会いの機会はたくさんあります。エクスペディション・チームによるリキャップと下船についての説明会に参加した後、国際日付変更線通過を祝い、そしてフェアウェルディナーをお楽しみください。

※国際日付変更線を通ります。

第15日目 ノーム入港/下船、解散

朝、**ノーム入港**。朝食後、米国の通関と入国手続を終えた後船のスタッフやエクスペディション・スタッフに別れを告げて下船です。

下船後、ノーム空港又は、指定された町の中心地までお送りいたします。

オホーツク海探検クルーズ

12日間

アシカと海鳥、悲しみの遺産の旅

北西太平洋に位置するオホーツク海に、ヨーロッパ人が訪れることは滅多にありません。

オホーツク海は、ロシア大陸とカムチャツカ半島との間に位置し、北と西はロシアに接し、東にはクリル諸島とサハリン島が南の国境をガードする内海にあります。沿岸部には、かつて、ニヴフ族、オロチ族、エヴェン族、イテリメン族などの先住民が住んでいました。

1725年と1733年にロシアの探検家ヴィトウス・ベアリングは、ロシア帝国の東海岸を探検するためにオホーツク海西岸のオホーツクの町から2度の探検を行いました。長い間、オホーツクはカムチャツカ半島とその先への玄関口でした。

オホーツクの近代的な町は、旧市街地の近くにあり、何世紀もの間、ほとんど変わっていません。住民は今や航空機を利用していますが、彼らの生活は依然として海に頼っており、決して何も変わっていません。

オホーツク海ほど人類が苦悩した海は他の世界では見られないでしょう。1932年～53年まで、350万人もの囚人がオホーツク海を渡り、コルイマ金鉱山の史上最悪の強制収容所に移送され、その中で僅か50万人のみが故郷に戻ったと言われています。マガダンの街と港は、これらの囚人によって建設されました。今日、この街に過去の悲劇的な痕跡はほとんどありませんが、思い出させるものは1996年に街を見下ろす丘の上に建立された犠牲者を悼む大きな慰霊碑「悲しみのマスク」です。

オホーツク海の北部地域は一年中凍り付いたままで、冬の嵐は非常に厳しいものがあります。豊かな漁場に加え最近では石油と天然ガスが発見され、この海がまだ利用されていることを意味しています。

1854年頃にはアメリカとイギリスは、160隻以上もの捕鯨船で捕鯨を行っていました。

この事実にもかかわらず、野生生物は、増え続けています。美しい模様のクラカケアザラシは、この海に多く生息しています。小さなイオナ島、そしてヤムスキエ諸島とチュレーニー島では、毎年、何百頭ものトドが繁殖しています。

チュレーニー島には**ロシア極東最大のキタオットセイ繁殖地**があります。また、オホーツク海には、数えきれないほど多くの鳥類が繁殖していて壮観です。

ヤムスキエ諸島のマティキル島では**推定700万羽もの鳥類が繁殖**しています。毎晩、**エトロフウミスズメ**が島の沖合から海岸に戻る際、**巨大な群れによって空が暗くなる**タラン島のような島もあります。

鳥類はウミスズメ科やツノメドリ属、ミズナギドリ科、ウミスズメ科など様々な種です。しかし鳥類は、遠洋の種だけではなくありません。オホーツク海には、極東ロシアのどこにもいる**オオワシが多く繁殖**しています。水鳥は、渡り鳥の種と同じように一般的です。しかし、**カムチャツカヒグマ**や**ホッキョクジリス**は、なかなか見る事が難しい動物です。

この探検クルーズは、あまり知られていないオホーツク海のユニークな旅です。最近まで抑圧されてきた歴史のある地域で、今まで語られる事なかったスターリンの圧制的な強制労働収容所の悲劇の大きさが今明らかになりつつあります。陸上と海洋には、多くの野生生物が生息しています。

この探検クルーズは冒険的で感動に満ちた最高の旅です。

●旅行開始日・旅行終了日・期間・利用客船

旅行開始日～終了日	期間	利用客船
2022年 6月24日(金)～ 7月 5日(火)	12日間	スピリット・オブ・エンダービー

● 集合地 / 解散地 : ユジノサハリンスク(サハリン島) / マガダン

● 食事条件 : 朝食11回、昼食10回、夕食11回

●クルーズ代金(大人お一人様)

※単位: 米国ドル (US \$)

利用客船	スピリット・オブ・エンダービー
旅行開始日	6月24日(火)
旅行終了日	7月 5日(火)
期間	12日間
トリプル(3人部屋)	6,590
メインデッキ	7,750
スーパーリア	8,270
スーパーリア・プラス	9,000
ミニ・スイート	9,420
ヘリテージ・スイート	10,370
ローカルペイメント	500

(備考) ローカルペイメントは、ご乗船後、米国ドルの現金でお支払いいただきます。



※地図はイメージです。

■スケジュール

日次	月日(曜)	日程	食事 朝 昼 夕	宿泊
1	6/24 (金)	午後 ユジノサハリンスクのホテルに集合 午後 コルサコフ港に送迎します。 午後 着後、乗船手続 夕刻 サハリン島の コルサコフ出港		船中
2	6/25 (土)	終日 チュレーニー島(海豹島)観光	○ ○ ○	船中
3	6/26 (日)	終日 ビルトン湾(サハリン島)観光	○ ○ ○	船中
4	6/27 (月)	終日 イオナ島観光	○ ○ ○	船中
5	6/28 (火)	終日 シャンタル諸島観光	○ ○ ○	船中
6	6/29 (水)	終日 シャンタル諸島観光	○ ○ ○	船中
7	6/30 (木)	終日 マルミンスキー 諸島観光	○ ○ ○	船中
8	7/ 1 (金)	終日 オホーツク観光	○ ○ ○	船中
9	7/ 2 (土)	終日 タラン島観光	○ ○ ○	船中
10	7/ 3 (日)	終日 コニ半島観光	○ ○ ○	船中
11	7/ 4 (月)	終日 ヤムスキエ諸島観光	○ ○ ○	船中
12	7/ 5 (火)	午前 マガダン入港 / 下船 午後 下船後、市内中心部のホテルへ送迎いたします。	○	

(備考) 食事欄の「○」は 船内食を表します。

●詳細日程

第1日目 サハリン島、コルサコフ出港

サハリン州の州都ユジノサハリンスクのメガパレス・ホテルにご集合ください。メガパレス・ホテルにご集合頂いた後、ユジノサハリンスクから南へ約40分のコルサコフまでバスでお送りいたします。

第2日目 チュレーニー島観光

コルサコフ到着後、スピリット・オブ・エンダービーに乗船。キャビンにお入りいただき、荷物の整理やこれからのクルーズ中、我が家となる船内を探検してください。乗船後、すぐに**コルサコフを出港**する予定です。出港後、エクスベディション・スタッフや乗組員の紹介、救命避難訓練などを予定しています。

第3日目 ビルトン湾(サハリン島)観光

サハリン島の南東海岸沖にあるあまり知られていない**チュレーニー島**(海豹島)に到着します。この小さな島は**キタオットセイ**の拠点でしたが1990年以降トドの数が増えています。1900年代初頭まで数千頭のオットセイがこの島で屠殺されていました。1911年に署名された「オットセイの研究と管理に関する国際条約」はこれまでの慣行を変え、以来その個体数はゆっくりと回復し、1950年代には約12万頭までに達しました。1960年代に実質的なフィールド調査ステーションが島に建設され、科学者は毎年、頭数を監視しました。1990年代にトドは島で繁殖を開始し、現在そのコロニーは2,500頭にもなっています。海象が良ければ、ここに上陸する予定です。**アザラシ**や**アシカ**の写真を撮ったり、研究者と話をしたりする機会があります。

第4日目 イオナ島観光

サハリン島を多くの人々の地図に載せたのは、この地域での石油とガスの発見でした。論争と抗議がなかったわけではありませんが最初の商業用井戸はビルトン湾に建設されました。生物学者は長い間カリフォルニアではなく南シナ海のどこかに移動すると思われていたコククジラの西部の個体群を知っていました。ビルトン湾はコククジラの個体にとって重要な生息地であるため、多国籍開発者には厳格な環境慣行が課せられました。石油とガスのプラットフォームが非常にほつきりしている**ビルトン湾**を訪れますが、ここに生息している**コククジラ**を探す予定です。ゾディアックボートで沿岸を移動し、採餌することが知られている浅い海域に移動します

第5～6日目 シャンタル諸島観光

このあまり知られていない**シャンタル諸島**には15の島があり、大陸に近いオホーツク海の西部に横たわっています。諸島周辺は毎年氷がなくなる最後の場所の1つです。この遅い時期の海水によって探索できる範囲が制限されることがあります。周囲に海水がある場合は、ここで繁殖する**アゴヒゲアザラシ**、**ワモンアザラシ**、**ゴマフアザラシ**、**クラカケアザラシ**などを見られる可能性が高くなります。この地域は美しい模様の**クラカケアザラシ**の観察や写真撮影に最適な場所の1つです。

第7日目 マルミンスキー諸島観光

また、シャンタル諸島周辺の海は**ホッキョククジラ**でも有名です。私たちが上陸できれば、船内のナチュラリストによるバードウォッチング、植物学、写真撮影のエクスカーションが行われます。上陸するチャンスを最大化し、最高の野生生物体験をするために、2日間の滞在を予定しています。

また、シャンタル諸島周辺の海は**ホッキョククジラ**でも有名です。私たちが上陸できれば、船内のナチュラリストによるバードウォッチング、植物学、写真撮影のエクスカーションが行われます。上陸するチャンスを最大化し、最高の野生生物体験をするために、2日間の滞在を予定しています。

第8日目 オホーツク観光

この町はロシア極東の歴史の中で、最初のコサック探検家が西からやって来た時から登場しています。彼らが到着する前に、先住民はこの地で鮭を収穫するため季節毎にキャンプを行っていたことは間違いありません。ヴィトウス・ベアリングは1725年にサントペテルブルクからオホーツクへ、1733年に再びオホーツクへ陸路で渡り、この小さな町からカムチャツカ半島やその先のアメリカ大陸北部沿岸の両探検に出発しました。北部のコリヤーク人はロシアの侵略者を敵視していたため、オホーツク海はカムチャツカ半島への主要なアクセスルートでした。現在、オホーツクはこの地域の漁業の中心地となっています。この港からは大量の鮭やその他の魚を輸出されています。

第9日目 タラン島観光

町を中心近くの川からゾディアックボートで上陸し、町を訪れます。地元の人々は寛大で、私達を歓迎してくれ、文化的な展示がある町の中心部で、いくつかのエンターテインメントを披露してくれます。これは本物のロシア極東文化を体験し、彼らのおもてなしを受けられる絶好の機会です。

第10日目 コニ半島観光

国際的に知られている鳥の島、**タラン島**はマガダンの西、約80km沖合にあります。主にこの島に巣を作る**何十万羽ものエトロフウミスズメ**で有名です。崖に沿って巣を作る**ミツコピカモメ**の数も非常に多く、当然のことながら**オオワシ**の個体数も多くなっています。気象条件が適切であれば、上陸前にゾディアックボートで島を一周します。夕食後の夜、再び戻って来て、島に戻る前に沖合に集まる**エトロフウミスズメ**の巨大な群れを目撃する予定です。それは驚異的な光景で、その日の夜の出来事を決して忘れる事はありません。

この保護区では特に**ヒグマ**と**シベリアアピッグホーン**を保護しています。上陸できる場所はたくさんあり、気候はオホーツク海の影響を強く受けています。コニ半島に上陸したり、探索したりした訪問者はほとんどいません。私たちの旅のスタイルを面白くしているのは、その多くが探検的な上陸だからです。

第11日目 ヤムスキエ諸島観光

これらの島々はマガダン自然保護区に含まれていて、何人かの生物学者は北太平洋で最大の鳥類のコロニーであると主張しています。**マティキル島**には諸島最大の**推定700万羽の海鳥**が繁殖しています。鳥類は**ウミガラス**、**ハシブトウミガラス**、**オカメインコ**、**コウミスズメ**、**エトピリカ**、**ツノメドリ**、**フルマカモメ**です。これらの中で最も多く繁殖している鳥は**コウミスズメ**です。また、島は**トド**の繁殖地として有名で、海と海岸で多くのトドをご覧いただけます。島への上陸が禁止されているのでゾディアックボートで島の周囲を見学し、野生生物の豊かさを実感します。

第12日目 マガダン入港 / 下船

マガダンという名前は、スターリンの圧制的な強制労働収容所と同じ意味です。1932~53年の間に350万人以上の囚人が護送船でオホーツク海を渡ってマガダン或いはナガエフに送られ、コルイマ金鉱山の強制労働に従事させられました。寒さや食料の不足、警備員や役人による非人道的な扱いなど、恐ろしい状況を乗り越えた者は50万人にすぎないと考えられています。現在この街には過去の悲劇的な痕跡はほとんどありません。地元博物館には強制労働収容所(残念ながらほとんどすべての情報はロシア語で書かれています)についての展示がされています。思い出させるものは、1996年に街を見下ろす丘の上に建立された犠牲者を悼む大きな慰霊碑「悲しみのマスク」です。現在、街の人口は、約10万人です。主要産業は、漁業で、金鉱採掘は機械的な浚渫と囚人が手を使って作業していた地域をうまく機械を使って作業を行っていた復活を遂げています。この街に住んでいる人々のライフラインを確保するため、港は砕氷船によって一年中、開かれています。悪名高いコルイマ街道或いは、骨街道(ロード・オブ・ボーン)は、マガダンとイルクーツク、そして最終的にはロシアへとつながっています。

朝遅くにマガダン港に入港する予定です。下船後、市内中心部のホテルへ無料送迎バスでお送りいたします。**(ご注意)** 天候または手続きのいずれかで避けられない遅延に備え、帰国便は、下船日の翌日以降の予約をお勧めいたします。



伝説の北東航路探検クルーズ

27日間

北極海航路(西行き)

ロシアは世界で最も大きな海路を管理しています。ロシアでは北極海航路として知られていますが、世界では、北東航路と呼ばれています。かつて、この航路の通過を成し遂げることができたのは、ほんの一握りの探検船のみでした。しかし近年の海水状況の変化に伴い、現在のこの歴史的な魅力あふれる北東航路を通過する事が可能となりました。

1878～1880年、スウェーデンの探検家、アドルフ・エリク・ノルデンショルドが人類史上、初めてこの北東航路の完全制覇を成し遂げました。材木、毛皮、金や穀物を西側の内陸のマーケットに陸路運搬するよりも河川を利用して船で運ぶほうが効率的であることが解り、この航路の商業的魅力が増しました。数隻の貿易船がオビ川やエニセイ川に到着した19世紀に北極海航路の利用が復活しましたが、北極海航路はロシア帝国海軍の砕氷船「タイミル号」と「バイガチ号」が戦略的目的のために二度の通過をおこなった1914-15年まで利用されませんでした。

1932年、ソ連のオットー・シュミットは、北極海航路の開発と運用を支援するために、航路に沿って極地研究所や気象観測所を設置。北東航路の管理を強化しました。ソ連の指導者たちは、強力な砕氷船の支援による大船団で、極東ロシアに多くの物資を輸送する事が出来るこの航路を利用しましたが、1990年代初頭のソ連の崩壊により、北極海航路を利用する船が殆ど無くなり、航路の利用が衰退してしまいました。しかし、最近の北極の海水状況の変化で、大西洋と太平洋の海を結ぶこの航路は、新たな商業的関心が高まりつつあります。

スピリット・オブ・エンダービー号は、このような航路を航行するために建造されました。是非、ほんの僅かの人々しか体験した事の無いこの歴史的な北東航路探検クルーズにご参加頂き、北極の景観や遺跡を満喫し、荒野に生きる野生生物の観察などで極地探検家や研究者しか体験できなかった北東航路の旅をお楽しみください。

●旅行開始日・旅行終了日・期間・利用客船

旅行開始日～終了日	期間	利用客船
2022年 8月 8日(月)～ 9月 3日(土)	27日間	スピリット・オブ・エンダービー

● 集合地 / 解散地 : アナディリ / ムルマンスク

● 食事条件 : 朝食26回、昼食25回、夕食26回

●クルーズ代金(大人お一人様)

※単位: 米国ドル (US \$)

利用客船	スピリット・オブ・エンダービー	
旅行開始日	8月 8日(月)	
旅行終了日	9月 3日(土)	
期間	27日間	
客室タイプ	メインデッキ	21,900
	スーパーリア	23,900
	スーパーリア・プラス	26,900
	ミニ・スイート	27,900
	ヘリテージ・スイート	29,900
ローカルペイメント	500	
アラスカのノームからロシアのアナディリまでの片道チャーター機運賃	1,400	

(備考) ローカルペイメントは、ご乗船後、米国ドルの現金でお支払いいただきます。



■スケジュール

日次	月日(曜)	日程	食事		宿泊
			朝	昼	
1	8/ 8 (月)	午前 アナディリ到着 午後、スピリット・オブ・エンダービーに乗船。 北東航路探検クルーズへ アナディリ出港 。		○	船中
2	8/ 9 (火)	終日 プレオブラゼニヤ湾観光	○	○	船中
3	8/10 (水)	終日 ホエールボーンアレイとギルミミル・ホットスプリングス観光	○	○	船中
4	8/11 (木)	終日 デジニョフ岬とウエレン村観光	○	○	船中
5	8/12 (金)	終日 コリュチン島観光	○	○	船中
6	8/13 (土)	終日 ウランゲリ島観光	○	○	船中
7	8/14 (日)	終日 ウランゲリ島観光	○	○	船中
8	8/15 (月)	終日 ウランゲリ島観光	○	○	船中
9	8/16 (火)	終日 東シベリア海クルーズ	○	○	船中
10	8/17 (水)	終日 アイオン島観光	○	○	船中
11	8/18 (木)	終日 メドヴェージェイ諸島	○	○	船中
12	8/19 (金)	終日 東シベリア海クルーズ	○	○	船中
13	8/20 (土)	終日 ニューシベリア諸島(ノヴォシビルスク諸島)観光	○	○	船中
14	8/21 (日)	終日 ニューシベリア諸島(ノヴォシビルスク諸島)観光	○	○	船中
15	8/22 (月)	終日 ラプテフ海横断探検クルーズ	○	○	船中
16	8/23 (火)	終日 ラプテフ海横断探検クルーズ	○	○	船中
17	8/24 (水)	終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○	○	船中
18	8/25 (木)	終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○	○	船中
19	8/26 (金)	終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○	○	船中
20	8/27 (土)	終日 カラ海探検クルーズ	○	○	船中
21	8/28 (日)	終日 カラ海探検クルーズ	○	○	船中
22	8/29 (月)	終日 フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○	○	船中
23	8/30 (火)	終日 フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○	○	船中
24	8/31 (水)	終日 フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○	○	船中
25	9/ 1 (木)	終日 バレンツ海クルーズ	○	○	船中
26	9/ 2 (金)	終日 バレンツ海クルーズ	○	○	船中
27	9/ 3 (土)	午前 ムルマンスク入港 、入国、通関手続。 下船後、空港及び市内のホテルまで無料送迎致します。	○		

(備考) 食事欄の「○」は 船内食を表します。



※地図はイメージです。

●詳細日程

●アラスカ州のノームから出発する場合

第0日目 ノーム発→アナディリ着 / 乗船 / 出港

アラスカ州ノームから出発するお客様にとって、この冒険は、ベーリング海を横断してチュクチ自治管区の行政中心都市で、探検クルーズの出港地であるアナディルへの飛行から始まります。飛行中、国際日付変更線を超え、第1日目にアナディルに到着します。
※ご注意: ノームには、出発の前日までに到着してください。

第1日目 アナディリ乗船 / 出港

チュクチ自治管区の政治と商業の中心地アナディリで探検客船に乗船します。エクスパディションチームと乗組員の紹介や安全についての説明会を予定しています。

夜、アナディリ出港の際、アナディル川の河口からペルーガを見つける絶好のチャンスです。

第2日目 プレオブラゼニヤ湾観光

午前、船内生活や野生生物の観察などでお楽しみください。

午後、ゾディアッククルーズで**プレオブラゼニヤ湾**沿岸の壮大な崖を探索する予定です。これらの崖には**ミツユビカモメ**、**ツノメドリ**、**エトピリカ**、**ハシフトウミガラス**、**ウミバト**、**シロカモメ**、**セグロカモメ**、**パラキート**、**エトロフウミスズメ**、**フルマカモメ**、**タイリクハクセキレイ**、**ハシボソミズナドリ**、**ムネアカタバヒバリ**など、何千羽もの鳥類が営巣しています。

第3日目 ホエールボーンアレイとギルミミル・ホットスプリングス観光

北極で最も重要で興味深い遺跡の一つでもある**イティグラン島**の**ホエールボーンアレイ**(クジラ骨小路)を訪れます。その名前はビーチ沿いに配置された多数のホッキョククジラの頭骨と肋骨から来ています。この小路は14世紀につくられたものと推測されています。その起源と目的、さらにはそれを作った人々のアイデンティティさえも不明で現在でも議論が続けられています。近くの海域はクジラの豊富な餌場となっていて、天候が許せばゾディアッククルージングで**コククジラ**と**セイウチ**の探索を予定しています。

午後、チュクチ半島東部の丘の奥深くに位置する**ギルミミル・ホットスプリングス**へのの上陸を予定しています。ツンドラの大地を探索しながら、豊かで美しい植生とこの地域で繁殖する**カナダヅル**を観察する予定です。

第4日目 デジニョフ岬とウエレン村観光

今朝早く、ユーラシア大陸の最東端でもある**デジニョフ岬**に到達します。デジニョフ岬はベーリング海峡を航行した最初のヨーロッパ人でコサック探検家のセミュン・デジニョフに因んで名付けられました。晴れた日にはデジニョフ岬から僅か93kmしか離れていないアメリカ大陸の海岸線を見ることが出来ます。上陸してセミュン・デジニョフに敬意を表して建立された記念碑を訪れます。また、1950年代に住民が再定住した伝統的なチュクチ村の**ナウカン遺跡**も探検します。

ベーリング海峡は渡り鳥にとって重要な移動経路で、**ケワタガモ**や**ホンケワタガモ**、**メガネケワタガモ**の群れが南に向けて飛翔するのをご覧いただけるかも知れません。デジニョフ岬の北西12kmにはロシア最北東の**ウエレン村**があります。

午後、**チュクチ族**を中心とした**地元の人々のおもてなし**をお楽しみください。文化的なパフォーマンスと有名な骨彫りのスタジオと博物館の訪問で午後の活動を締めくくります。このスタジオで制作された作品は、ほとんどの主要なロシアの美術館で見ることが出来ます。

第5日目 コリュチン島観光

ロシア本土のすぐ北に位置し、何千羽もの海鳥が営巣する長さ4.2kmの**コリュチン島**に上陸する予定です。繁殖期のピーク時を過ぎてから訪れることとなりますが、**エトピリカ**や**ツノメドリ**、**ハシフトウミガラス**、**ウミガラス**、**ミツユビカモメ**はまだ沢山見られるはずで、ゾディアックボートで崖の周囲のクルージングを予定していますので素晴らしい写真撮影の

チャンスがあるかも知れません。

ウランゲリ島に向けて出港する際、海洋哺乳類を観察できるチャンスがありますので、屋外デッキからエクスペディションチームと一緒にご覧ください。以前この海域で**ザトウクジラ**と**ホッキョククジラ**を観察する事ができました。

第6~8日目 ウランゲリ島観光

ウランゲリ島は、とても魅力的な島です。ここはロシア連邦自然保護区で、**ユネスコの世界自然遺産にも登録**されています。その重要性は**ホッキョクグマの繁殖地**であり、この島は最後の氷河期にも氷河が形成されなかった北極圏の少数ない地域の1つです。

実際ここで生まれた小熊の数が多いため、時には、**ツキョクグマ**の産科病棟と呼ばれる事もあります。ホッキョクグマの他にも毎年この島で繁殖する**ジャコウウシ**や**ホッキョクギツネ**、**ハクガン**、**シロフクロウ**などを観察する事が出来ます。ウランゲリ島は最終氷期最盛期にも氷河化されていないので、ツンドラの植物相の多様性は並外れて優れており、上陸中に**夏の最後の花々**をご覧いただけるでしょう。ウランゲリ島で3日間の探検を予定しており、地元のレンジャーとエクスペディションチームが協力してこのプログラムをカスタマイズしてこの最高の旅をご案内いたします。

第9日目 東シベリア海クルーズ

東シベリア海を通過する際、専門講師と知識を共有しながら、北東航路の豊かな歴史と野生生物について学びます。この海は西の**ニューシベリア諸島**(ノヴォシビルスク諸島)と東のウランゲリ島によって囲まれており、その南岸に沿ってシベリアの3つの主要な河川、**インディキルガ川**、**アラゼヤ川**、**コリマ川**が東シベリア海に流れ込んでいます。平均的な水深は僅か54mで、**セイウチ**や**クジラ**にとって理想的な生息地です。

第10日目 アイオン島観光

コリマ湾の東側に位置する**アイオン島**は比較的低地で肥沃なツンドラに覆われています。この島を故郷と呼ぶチュクチ族の人々は、**トナカイ**遊牧民とハンターです。ソビエト時代に



●詳細日程 (続き)

は2万頭ものトナカイがこの島で飼われていましたが、現在は4千頭ほどです。過酷な北極圏の気候にもかかわらず、この遠く離れた島での生活について学ぶと同時に、地元の人々の温かいおもてなしを楽しみます。

第 11 日目 メドヴェジ諸島(ベア諸島) 観光

ほとんど知られておらず、めったに人間が訪れる事もない、花崗岩からなる5つの群島の**メドヴェジ諸島**(ベア諸島)を探検します。名前が示すように島には冬の間、これらの島々の崖に巣を作る**ホッキョクグマ**がかなりいます。**チュエリヨフストルボヴォイ島**への上陸では、遠くから見るとモアイに似ている珍しい岩「ピロース」へのハイキングを予定しています。永久凍土が解けてゆっくりと海に流れ落ちると同時に、永久凍土の上に建っている気象観測所が、ゆっくりと崩壊する様子が見て取れます。**オストロフ・プシュカレヴァ島**では古い灯台の見学や広大なツンドラに咲き誇る北極の花々をお楽しみいただけます。

第 12 日目 東シベリア海クルーズ

東シベリア海は1879年ジョージ・ワシントン・デ・ロングが船長を務めたジャネット号が氷に閉じ込められ、そして押しつぶされて沈んだところ。隊員達は、小型ボートでコリマ川のデルタ地帯まで辿り着きましたが、そこで多くの隊員が死んでしまいました。

ジャネット号の残骸は、1884年にグリーンランドで発見されました。ジャネット号の発見は1893-96年のフリチョフ・ナンセンの北極海を横切って漂うフラム号探検に重要なアイデアを与えました。

第 13~14 日目 ニューシベリア諸島(ノヴォシビルスク諸島) 観光

ニューシベリア諸島は南部(リャーホフスキー諸島)と中部(アンジュ諸島)、北部(デ・ロング諸島)からなる3つの主要なグループで構成されていて、ラプテフ海と東シベリア海の境界となっています。有名な極地探検家兼研究者フリチョフ・ナンセンが、北極海の流水に密閉されて漂流しながら地理上の北極点に到達しようとした探検で、フラム号を流氷に浮かべたのはこの辺りでした。ニューシベリア諸島は、マンモスやサイ、その他の極北の更新世の動物の化石の宝庫で有名です。我々が島を探検している間に化石を発見する事は決して珍しい事ではありません。

この探検クルーズでは、めったに訪れる事のない驚くべき群島を探検するために2日間の時間をとりました。条件が許せば、3つの主要なグループの島々を訪れユニークな地質や風景などを探索する予定です。グループの中

で最も標高の高い島は、群島の最も北にあるベネット島です。グレート・リャーホフスキー島の南岸には、活動中の気象観測所があり、職員が僅かに常駐しています。

第 15~16 日目 ラプテフ海クルーズ

ラプテフ海は西はタイミル半島とセヴェルナヤ・ゼムリヤ、東はニューシベリア諸島(ノボシビルスク諸島)に囲まれています。ラプテフ海の名前はロシアの探検家ドミトリー・ヤコヴレヴィッチ・ラプテフとハリトン・プロコフィエヴィッチ・ラプテフを称えて名付けられました。この海域だけに生息する**ラプテフ海セイウチ**を探索してみてください。ラプテフ海にはレナ川とヤナ川の2つの大河が流れ込んでいます。ラプテフ海の西側に沿ってタイミル半島を探索する予定です。ラプテフ海セイウチは、ラプテフ海のみで生息していて、この海域でしか見られません。このユニークで完全に隔離されたセイウチの個体群を撮影する時間を取りたいと考えています。

また、あまり知られていない**セグロカモメ**も見られるチャンスがあるかも知れません。我々はラプテフ海からタイミル半島とセヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島を隔てるウリキツキー海峡を通過して、ユーラシア大陸最北の地点を通過します。このことは、この探検クルーズにとって画期的な出来事であり、伝統的に氷が澄み、太平洋と大西洋の野生生物が生物学的に分かれる最後の地域です。

第 17~19 日目 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光

ノーザンランド(北方の土地)という意味の**セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島**はラプテフ海との境界に位置し、タイミル半島の延長線上にあります。これらの島々は1914年から15年にロシアの探検家ボリス・ウリキツキーが調査するまで発見されませんでした。これは世界で最後に発見された重要な群島でした。3つ大きな島は、深いフィヨルドで壮大な氷河に覆われています。氷山を定期的に分離している雄大なタイドウォーター氷河は、クルージングのための素晴らしい環境を提供します。ここは**ゾウゲカモメ**の最後の拠点の1つで、コロニーを訪れるチャンスがあるかも知れません。

第 20~21 日目 カラ海クルーズ

ノヴァヤゼムリヤとセヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島に囲まれた**カラ海**はロシアの大河、オビ川とエニセイ川が流れ込んでいて、ロシアで最も冷たい海と考えられています。フランツ・ヨーゼフ諸島への航路上には、1930年にウラジミール・ヴィゼによって「発見」された大きくて平らな**ヴィゼ島**があります。状況が許せば上陸を試みる予定です。

第 22~24 日目 フランツ・ヨーゼフ諸島観光

北極点から僅か10度の北緯80.0度~81.9度に位置し、192の島々からなるこの巨大な群島には、探索できる場所が数多くあります。フランツ・ヨーゼフ諸島は何十年にもわたって部外者に閉鎖されておりました。今日では北極海の恒久的な氷に近い場所にありながら、大西洋の豊かな海にアクセスできる北極海の野生生物保護区の1つです。諸島の名前は1870年にオーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世を記念して名付けられました。この群島は北極海航路を探していたカール・ヴァイブレヒトによるオーストリア・ハンガリー帝国探検隊によって発見されました。

群島には探検、科学研究、居住について魅力的で豊富な記録があります。ここにいる間、有名な「悪魔の大理石(球形のジオード)」が風景に点在する**アルジェ島のトリエステ岬**、3つの歴史的な探検の遺跡が近くにある**ノースブルック島のフロラ岬**など忙しい上陸スケジュールが計画されています。そして**フッカー島のディカヤ湾**では、円柱状のルビネーロックの崖で繁殖する**膨大な数のウミガラスとミツビシカモメ**に圧倒されます。また、フランツ・ヨーゼフ諸島が発見された最初の部分である**テゲトホフ岬**への訪問も予定しています。群島には非常に健康な**ホッキョクグマ**がたくさん生息しており、陸上と残っている氷の上を注意深く監視します。群島を航海する際には、**ペルーガ**や**ホッキョククジラ**を見つけるチャンスがあります。運が良ければユニコーンのような単一の牙を持つ**ツツカク**を見つけることができるかも知れません。

第 25~26 日目 バレンツ海クルーズ

バレンツ海と言う名前は1594年と1596年の2度にわたりこの海域を探検したオランダの航海士で探検家のウィレム・バレンツに敬意を表し命名されました。2日間の航海でレクチャー・シリーズ(北極講座)は、終了となります。そして、今回の北東航路の旅を振り返ります。南に向かうにつれ、採餌中の多くの**ザトウクジラ**や**タテゴアザラシ**を見られるでしょう。ロシア沿岸に近づくにつれ伝説の北東航路の旅も間もなく終了となります。

第 27 日目 ムルマンスク入港/下船

ロシアの歴史の中で戦略的に重要な港で、ロシアの砕氷船艦隊の本拠地である**ムルマンスク入港**で伝説の北東航路の旅は終了となります。ロシアの入国手続と通関を終えた後、北東航路の感動を胸に、エクスペディション・スタッフや乗組員に別れを告げて下船です。下船後、ムルマンスク空港及び市内中心部のホテルまで無料でお送りいたします。

伝説の北東航路探検クルーズ

北極海航路(東行き)

27日間

神秘的な北東航路は何世紀にもわたって探検家達を魅了し続けてきました。ロシアの支配下にある海路は、歴史と謎に満ちています。遠隔の海岸には多くの野生生物が生息しています。これまで殆どの探検船は北東航路を航行する事が出来ませんでした。近年の海水状況の変化によって、短い夏の一時に航行する事が可能になりました。ヘリテージ社では2017年に北東航路の完全制覇を成し遂げる事ができました。そして再び2022年、ムルマンスクからアナディリまでの北東航路の完全制覇を目指します。伝説の極地探検家アドルフ・エリック・ノルデンショルドのルートを辿り、狭いフィヨルドを航行しながらユニークな野生生物の探索や過去の遺跡を訪ね、地元の村で温かいおもてなしなどを体験いたします。

ヨーロッパの探検家は何世紀にもわたり北東航路の存在と経済的利益を探索し続けてきました。ピョートル大帝(ピョートル1世)が後援した1733-43年のグレートノーザン探検隊は多くの重要な発見をしましたが、その航海は経済的な貿易ルートの開発ではありませんでした。1878-80年にかけて、スウェーデンの探検家アドルフ・エリック・ノルデンショルドがいくつかの困難を乗り越えて史上初の北東航路完全制覇を成し遂げ、北東航路は航行可能である事を実証しました。1914-15年にかけて、ボリス・ウリキツキーはロシア海軍の戦略的目的推進の一環として砕氷船、タイミル号とヴァイガチ号の

2隻で北極海航路を2度航海しました。北極海航路の開発はソ連の中心的目的になり、1932年、北極地域の為に北極海航路アドミニストレーションが設立されました。

ロシアの北部に広がる広大な浅瀬は一年中この地域を覆う広大な海水によって保護されており、北極圏の多くの種にとっては楽園です。ホッキョクグマは至る所を歩き回りますが、特にフランツ・ヨーゼフ諸島とウラングーリ島の保護区に密集しています。航海中、**タイハイヨウセイウチ**、**ラプテフセイウチ**、**タイセイヨウセイウチ**を見学いただけます。また、セイウチの大規模なホールアウト(えさを取る合間に集団で氷や海岸で休む場所)に遭遇するチャンスも期待出来ます。**ゾウゲカモメ**や**クビワカモメ**、**ヒメクビワカモメ**などは、北東航路の険しい断崖で繁殖しています。**ホッキョククジラ**、**ペルーガ**、**イッカククジラ**などが見られる可能性があります。ナチュラリストが常に探索を続けています。

スピリット・オブ・エンダービー号は、このような航路を航行するために建造されました。是非、ほんの僅かの人々しか体験した事のないこの歴史的な北東航路探検クルーズにご参加頂き、北極の景観や遺跡を満喫し、荒野に生きる野生生物の観察などで極地探検家や研究者しか体験できなかった北東航路の旅をお楽しみください。

●旅行開始日・旅行終了日・期間・利用客船

旅行開始日~終了日	期間	利用客船
2022年 9月 4日(日)~ 9月30日(金)	27日間	スピリット・オブ・エンダービー

● 集合地/解散地: ムルマンスク/アナディリ

● 食事条件: 朝食26回、昼食25回、夕食26回

●クルーズ代金(大人お一人様)

※単位: 米ドル(US \$)

利用客船	スピリット・オブ・エンダービー
旅行開始日	9月 4日(日)
旅行終了日	9月30日(金)
期間	27日間
メインデッキ	21,900
スーベリア	23,900
スーベリア・プラス	26,900
ミニ・スイート	27,900
ヘリテージ・スイート	29,900
ローカルペイメント	500
ロシアのアナディリからアラスカのノームまでの片道チャーター機運賃	1,400

(備考) ローカルペイメントは、ご乗船後、米ドルの現金でお支払いいただけます。



※地図はイメージです。

■スケジュール

日次	月日(曜)	日程	食事 朝昼夕	宿泊
1	9/ 4 (日)	午後 夕刻 スピリット・オブ・エンダービーに乗船。 北東航路探検クルーズ ムルマンスク 出港。	○	船中
2	9/ 5 (月)	終日 バレンツ海クルーズ	○	船中
3	9/ 6 (火)	終日 バレンツ海クルーズ	○	船中
4	9/ 7 (水)	終日 フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○	船中
5	9/ 8 (木)	終日 フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○	船中
6	9/ 9 (金)	終日 フランツ・ヨーゼフ諸島観光	○	船中
7	9/10 (土)	終日 カラ海探検クルーズ	○	船中
8	9/11 (日)	終日 カラ海探検クルーズ	○	船中
9	9/12 (月)	終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○	船中
10	9/13 (火)	終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○	船中
11	9/14 (水)	終日 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光	○	船中
12	9/15 (木)	終日 ラプテフ海横断探検クルーズ	○	船中
13	9/16 (金)	終日 ラプテフ海横断探検クルーズ	○	船中
14	9/17 (土)	終日 ニューシベリア諸島(ノヴォシビルスク諸島)観光	○	船中
15	9/18 (日)	終日 ニューシベリア諸島(ノヴォシビルスク諸島)観光	○	船中
16	9/19 (月)	終日 東シベリア海クルーズ	○	船中
17	9/20 (火)	終日 メドヴェジ諸島	○	船中
18	9/21 (水)	終日 アイオン島観光	○	船中
19	9/22 (木)	終日 東シベリア海クルーズ	○	船中
20	9/23 (金)	終日 ウラングーリ島観光	○	船中
21	9/24 (土)	終日 ウラングーリ島観光	○	船中
22	9/25 (日)	終日 ウラングーリ島観光	○	船中
23	9/26 (月)	終日 コリユチン島観光	○	船中
24	9/27 (火)	終日 ウエレン村とデジニョフ岬観光	○	船中
25	9/28 (水)	終日 ホエールポーンアレイと ギルミル・ホットスプリングス観光	○	船中
26	9/29 (木)	終日 ブレオブラゼニヤ湾観光	○	船中
27	9/30 (金)	午前 アナディリ 入港、下船、解散。 下船後、空港及び市内のホテルまで無料送迎致します。	○	

(備考) 食事欄の「○」は船内食を表します。





● 詳細日程

第1日目 ムルマンスク入港／下船

ムルマンスクは、ロシア砕氷船の本拠地で、ロシアの歴史の中で戦略的に重要な港として紹介されています。午後、ロシアのムルマンスクでスピリット・オブ・エンダービーに乗船します。夕刻、**ムルマンスクを出港**。エキスペディションスタッフと乗組員の紹介や安全についての説明会を予定しています。

第2~3日目 バレンツ海クルーズ

バレンツ海と言う名前は、1594年と1596年の2度にわたりこの海域を探検したオランダの航海士で探検家のウィレム・バレンツに敬意を表し命名されました。2日間の航海中にレクチャー・シリーズ（北極講座）が始まります。北に向かうにつれ、探検中の多くのザトウクジラやタテゴトアザラシが見られるでしょう。

第4~6日目 フランツ・ヨーゼフ諸島観光

北極点から僅か10度の北緯80.0度～81.9度に位置し、192の島々からなるこの巨大な群島には、探索できる場所が数多くあります。**フランツ・ヨーゼフ諸島**は何十年にもわたって部外者に閉鎖されておりました。今日では北極海の恒久的な氷に近い場所にありながら、大西洋の豊かな海にアクセスできる北極海の野生生物保護区の1つです。諸島の名前は、1870年にオーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世を記念して名付けられました。この群島は北極海航路を探していたカール・ヴァイブレヒトによるオーストリア・ハンガリー帝国探検隊によって発見されました。群島には探検、科学研究、居住について魅力的で豊富な記録があります。

ここにいる間、有名な「悪魔の大理石（球形のジオード）」が風景に点在する**アルジェ島のトリエステ岬**、3つの歴史的な探検の遺跡が近くにある**ノースブルック島のフローラ岬**など忙しい上陸スケジュールが計画されています。そして**フッカー島のティカヤ湾**では、円柱状の**ルビニーロック**の崖で繁殖する膨大な数のウミガラスとミツユビカモメに圧倒されるでしょう。また、フランツ・ヨーゼフ諸島が発見された最初の部分である**テゲトホフ岬**への訪問も予定しています。群島には非常に健康なホッキョクグマがたくさん生息しており、陸上に残っている氷の上を注意深く監視します。群島を航海する際には**ペルーガ**やホッキョク

ジラを見つけるチャンスがあります。運が良ければ、ユニコーンのような単一の牙を持つ**イッカク**を見つけることができるかも知れません。

第7~8日目 カラ海クルーズ

ノヴァヤゼムリヤとセヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島に囲まれた**カラ海**はロシアの大河、オビ川とエニセイ川が流れ込んでいて、ロシアで最も冷たい海と考えられています。フランツ・ヨーゼフ諸島からの航路上には、1930年にウラジミール・ヴィゼによって発見された大きくて平らなヴィゼ島があります。状況が許せば上陸を試みる予定です。

第9~11日目 セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島観光

ノーザンランド（北方の土地）という意味の**セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島**はラプテフ海との境界線に位置し、タイミル半島の延長線上にあります。これらの島々は、1914年から15年にロシアの探検家ボリス・ヴィリキツキーが調査するまで発見されませんでした。これは**世界で最後に発見された重要な群島**でした。3つ大きな島は深いフィヨルドで大きな氷河に覆われています。氷山を定期的に分離している雄大なタイドウォーター氷河は、クルージングのための素晴らしい環境を提供しています。ここは**ソウゲカモメ**の最後の拠点の1つで、コロニーを訪れるチャンスがあるかも知れません。

第12~13日目 ラプテフ海クルーズ

この海の西側はタイミル半島とセヴェルナヤ・ゼムリヤ、東側はニューシベリア諸島（ノボシビルスク諸島）に囲まれています。ラプテフ海の名前はロシアの探検家ドミトリー・ヤコヴレヴィッチ・ラプテフとハリトン・プロコフィエヴィッチ・ラプテフを称えて名付けられました。

この海域だけに生息する**ラプテフ海セイウチ**を探索してみてください。ラプテフ海にはレナ川とヤナ川の2つの大河が流れ込んでいます。ラプテフ海の西側に沿ってタイミル半島を探索する予定です。ラプテフ海セイウチはラプテフ海のみで生息していて、この海域でしか見られません。このコニークで完全に隔離されたセイウチの個体群を撮影する時間を取りたいと考えています。また、あまり知られていない**セグロカモメ**も見られるチャンスがあるかも知れません。我々はカラ海からタイミル半島とセヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島を隔てるヴィリキツキー海峡を通過して、ユーラシア大陸

最北の地点を通過します。このことは、この探検クルーズにとって画期的な出来事であり、伝統的に氷が澄み、太平洋と大西洋の野生生物が生物学的に分かれる最後の地域です。

第14~15日目 ニューシベリア諸島（ノボシビルスク諸島）観光

この**ニューシベリア諸島**はラプテフ海と東シベリア海の境界に位置し、主に南部（リャーホフスキー諸島）と中部（アンジュ諸島）、北部（デ・ロング諸島）からなる3つの主要なグループで構成されていて、ラプテフ海と東シベリア海の境界となっています。

有名な極地探検家兼研究者フリチョフ・ナンセンが、北極海の流氷に密閉されて漂流しながら地理上の北極点に到達しようとした探検で、フラム号を流氷に浮かべたのはこの辺りでした。ニューシベリア諸島はマンモスやサイ、その他の極北の**更新世の動物の化石の宝庫**で有名です。我々が島を探検している間に化石を発見する事は決して珍しい事ではありません。この探検クルーズでは、めったに訪れる事のない驚くべき群島を探検するために2日間の時間をとりました。条件が許せば、3つの主要なグループの島々を訪れユニークな地質や風景などを探索する予定です。グループの中で最も標高の高い島は、群島の最も北に位置する**ベネット島**です。グレート・リャーホフスキー島の南岸には、活動中の気象観測所があり、職員が僅かに常駐しています。

第16日目 東シベリア海クルーズ

東シベリア海は1879年ジョージ・ワシントン・デ・ロングが船長を務めたジャネット号が氷に閉じ込められ、そして押しつぶされて沈んだところから。隊員達は、小型ボートでコリマ川のデルタ地帯まで辿り着きましたが、そこで多くの隊員が死んでしまいました。ジャネット号の残骸は、1884年にグリーンランドで発見されました。ジャネット号の発見は、1893～96年のフリチョフ・ナンセンの北極海を横切って漂うフラム号探検に重要なアイデアを与えました。

第17日目 メドヴェジ諸島観光

今日、ほとんど知られておらず、めったに人間が訪れる事もない、花崗岩からなる5つの群島の**メドヴェジ諸島**（ベア諸島）を探検します。名前が示すように、島には冬の間、これらの島々の崖に巣を作る**ホッキョクグマ**がかなりいます。**チェティリョフストルボヴォイ島**へ



の上陸では、遠くから見るとモアイに似ている珍しい岩「ピローズ」へのハイキングを予定しています。永久凍土が解けてゆっくりと海に流れ落ちると同時に、永久凍土の上に建っている気象観測所が、ゆっくりと崩壊する様子が見て取れます。**オストロフ・プシュカレヴァ島**では、古い灯台の見学や広大なツンドラに咲き誇る北極の花々をお楽しみいただけます。

第18日目 アイオン島観光

コリマ湾の東側に位置する**アイオン島**は比較的低地で肥沃なツンドラに覆われています。この島を故郷と呼ぶチュクチ族の人々はトナカイ遊牧民とハンターです。ソビエト時代には、2万頭ものトナカイがこの島で飼われていましたが、現在は4千頭ほどです。過酷な北極圏の気候にもかかわらず、この遠く離れた島での生活について学ぶと同時に、地元の人々の温かいおもてなしを楽しみます。

第19日目 東シベリア海クルーズ

東シベリア海を通過する際、専門講師と知識を共有しながら、北東航路の豊かな歴史と野生生物について学びます。この海は西のニューシベリア諸島（ノボシビルスク諸島）と東のウランゲリ島によって囲まれており、その南岸に沿ってシベリアの3つの主要な河川、インディキルガ川、アラゼヤ川、コリマ川が東シベリア海に流れ込んでいます。平均的な水深は僅か54mで、**セイウチヤクジラ**にとって理想的な生息地です。

第20~21日目 ウランゲリ島観光

ウランゲリ島はとても魅力的な島です。ここはロシア連邦自然保護区で、**ユネスコの世界自然遺産にも登録**されています。その重要性は**ホッキョクグマの繁殖地**であり、この島は最後の氷河期にも氷河が形成されなかった北極圏の数少ない地域のひとつです。実際、ここで生まれた小熊の数が多いため、時には、ホッキョクグマの産科病棟と呼ばれる事もあります。

ホッキョクグマの他にも毎年、この島で繁殖する**ジャコウウシヤホッキョクギツネ**、**ハクガン**、**シロクロウ**などを観察する事ができます。ウランゲリ島は最終氷期最盛期にも氷河化されていないので、ツンドラの植物相の多様性は、並外れて優れており、上陸中に**夏の最後の花々**をご覧いただけるでしょう。ウランゲリ島で3日間の探検を予定しており、地元のレンジャーとエキスペディションチームが協力して

このプログラムをカスタマイズしてこの最高の旅をご案内いたします。

第23日目 コリュチン島観光

今日、ロシア本土のすぐ北に位置し、何千羽もの海鳥が営巣する長さ4.2kmの**コリュチン島**に上陸する予定です。繁殖期のピーク時を過ぎてから訪れることとなりますが、**エトピリカヤツノメドリ**、**ハシブトウミガラス**、**ウミガラス**、**ミツユビカモメ**はまだ沢山見られるはず。ゾディアックボートで崖の周囲のクルージングを予定していますので素晴らしい写真撮影のチャンスがあるかも知れません。出港する際、海洋哺乳類を観察できるチャンスがありますので、屋外デッキからエキスペディションチームと一緒にご覧ください。以前、この海域で**ザトウクジラ**と**ホッキョククジラ**を観察する事ができました。

第24日目 ウエレン村とデジニョフ岬観光

今朝早く、ユーラシア大陸の最東端でもある**デジニョフ岬**に到達します。デジニョフ岬はベーリング海峡を航行した最初のヨーロッパ人でコサック探検家のセモン・デジニョフに因んで名付けられました。晴れた日には、デジニョフ岬から僅か93kmしか離れていないアメリカ大陸の海岸線を見ることがあります。上陸してセモン・デジニョフに敬意を表して建てられた記念碑を訪れます。また、1950年代に住民が再定住した伝統的なチュクチ村の**ナウカン遺跡**も探検します。ベーリング海峡は渡り島にとって重要な移動経路で、**ケワタガモ**や**ホンケワタガモ**、**メガネケワタガモ**の群れが南に向けて飛翔するのをご覧いただけるかも知れません。

デジニョフ岬の北西12kmにはロシア最北東の**ウエレン村**があります。午後、チュクチ族を中心とした地元の人々のおもてなしをお楽しみください。この村は、世界最大の伝統的なチュクチ族とイヌイト族の芸術の中心地です。文化的なパフォーマンスと有名な骨彫りのスタジオと博物館の訪問で午後の活動を締めくくります。このスタジオで制作された作品は、ほとんどの主要なロシアの美術館で見ることが出来ます。

第25日目 ホエールボーンアレイとギルミル・ホットスプリングス観光

北極で最も重要で興味深い遺跡の一つでもある**イディグラン島のホエールボーンアレイ**

（クジラ骨小路）を訪れます。その名前はピーチ治いに配置された多数のホッキョククジラの顎骨と肋骨から来ています。この小路は14世紀につくられたものと推測されています。その起源と目的、さらにはそれを作った人々のアイデンティティさえも不明で現在でも議論が続けられています。近くの海域はクジラの豊富な餌場となっていて、天候が許せば、ゾディアッククルージングで**コククジラ**と**セイウチ**の探索を予定しています。

午後、チュクチ半島東部の丘の奥深くに位置する**ギルミル・ホットスプリングス**への上陸を予定しています。ツンドラの大地を探索しながら、豊かで美しい植生とこの地域で繁殖するカナダツルを観察する予定です。

第26日目 プレオブラゼニヤ湾観光

午前、船内生活や野生生物の観察などでお楽しみください。今日の午後、ゾディアッククルーズで**プレオブラゼニヤ湾**沿岸の壮大な崖を探索する予定です。これらの崖には**ミツユビカモメ**、**ツノメドリ**、**エトピリカ**、**ハシブトウミガラス**、**ウミバト**、**シロカモメ**、**セグロカモメ**、**バラキート**、**エトロフウミスズメ**、**フルマカモメ**、**タイリクハクセキレイ**、**ハシボソミズナギドリ**、**ムネアカタヒバリ**など何千羽もの鳥類が営巣しています。

第27日目 アナディリ入港、下船、解散

朝、**アナディリ入港**で北東航路探検クルーズは、終了となります。朝食後、下船。午前：下船後、アナディリ空港又は、市内中心部のホテルまでお送りいたします。

●ヘリテージ社のチャーター機でアラスカ州のノームへ戻る場合

正午頃、アナディリ空港からチャーター機でアラスカ州のノームに向けて出発します。途中、国際日付変更線を通過するため、ノーム到着は、前日（9月29日/木）の夕刻です。
※ご注意：チャーター機のノーム到着が、遅れる場合がありますので、接続便については、ノーム到着の翌日以降にノームを出発する便の予約するよう強くお勧めいたします。

ヘリテージ・アドベンチャー

先駆的な探検客船で、歴史と洗練されたデザインから「極地探検の貴婦人」と呼ばれることもあり、1991年にフィンランドのラウマ造船所で冒険のために特別に建造されました。もともと乗客定員184名で設計されていましたが、広々としたスタイリッシュで快適な航海を提供するために、乗客定員を僅か140名に制限。そして14艘のゾディアックボートを搭載し、すべてのお客様が探検クルーズを最大限に満喫いただけるようご案内いたします。

本格的な探検クルーズで比類のない基準を設定するヘリテージ・アドベンチャー（旧称MSハンゼアティック）は、極地探検の印象的な歴史と最高のアイスクラス（1Aスーパー）を兼ね備え、ヘリテージ・エクスペディションズ社のフラッグシップとしてパーソナライズされた伝統の探検クルーズをご案内いたします。



オブザベーションデッキ/イメージ



オブザベーションデッキ/イメージ

■主な施設

ダイニングルーム（お食事は1回制の自由席）
ビストロ、ラウンジ、バー、サウナ、プール、
図書室、医務室、レクチャーシアター

■客室の主な設備

ソファ、薄型テレビ、エンターテインメントシステム



メインデッキ・トリプル/イメージ



スーパーリア・トリプル/イメージ



スーパーリア・デッキ5 /イメージ



メインデッキ・シングル/イメージ



ウォースリー・スイート/イメージ

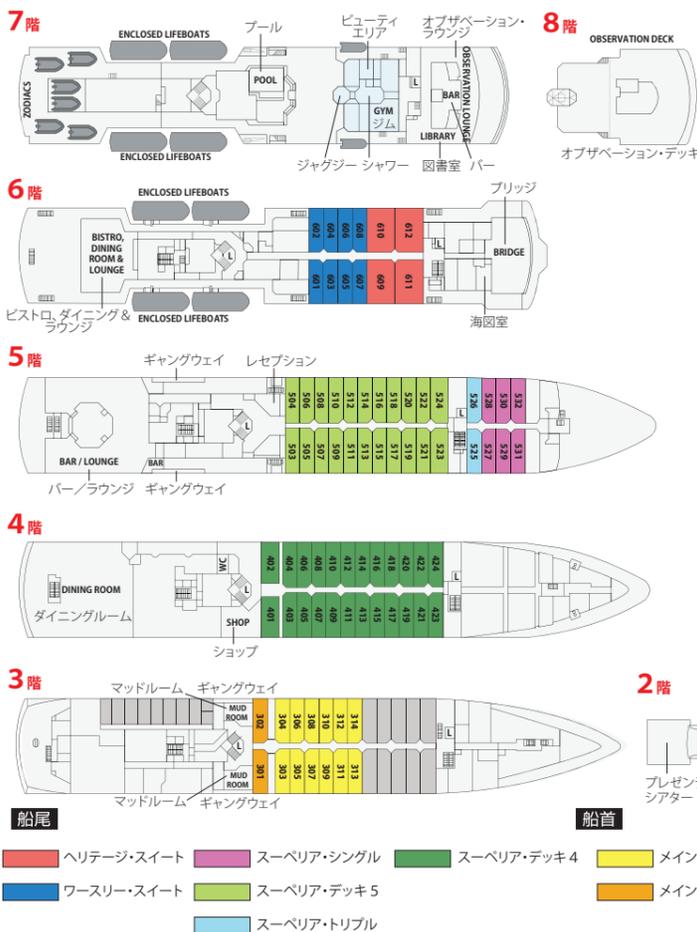


ヘリテージ・スイート/イメージ



シップデータ

- 建造年：1991年
- 建造国：フィンランド
- 総トン数：8,378トン
- 全長：124m
- 全幅：18m
- 喫水：4.97m
- 巡航速度/最高速度：12ノット/15ノット
- アイスクラス：1AS（耐氷船）
- エンジン：2×3,940馬力
- 乗客定員：140名



- ヘリテージ・スイート
- スーパーリア・シングル
- スーパーリア・デッキ4
- メインデッキ・シングル
- ウォースリー・スイート
- スーパーリア・デッキ5
- メインデッキ・トリプル
- スーパーリア・トリプル

客室タイプ	客室の設備	広さ	階
メインデッキ・トリプル	海側（丸窓）、ツインベッドと上段ベッド、シャワー付	22㎡	3
スーパーリア・トリプル	海側（丸窓）、ツインベッドと上段ベッド、シャワー付	22㎡	5
スーパーリア・デッキ4	海側（角窓）ツインベッド又はキングサイズベッド、シャワー付	22㎡	4
スーパーリア・デッキ5	海側（角窓）ツインベッド又はキングサイズベッド、シャワー付	22㎡	5
ウォースリー・スイート	海側（角窓）ツインベッド又はキングサイズベッド、シャワー付	22㎡	6
ヘリテージ・スイート	海側（大きな窓）、キングサイズベッド、大理石のバスルーム（ダブル洗面台、バスタブとシャワー付）ソファ付きのリビングエリア、コーヒーテーブル、キャビネット	44㎡	5
メインデッキ・シングル	海側（角窓）、キングサイズベッド、シャワー付	22㎡	5
スーパーリア・シングル	海側（丸窓）、キングサイズベッド、シャワー付	22㎡	3

※ブルマンベッド：使用しないときは壁に収納される跳ね上げ式のベッド。
※すべての客室には、ソファと薄型テレビ、エンターテインメントシステムが備わっています。

スピリット・オブ・エンダービー

耐氷能力に優れたスピリット・オブ・エンダービー号は、1984年に極地及び海洋調査研究のために建造されたもので、探検クルーズに最適な客船です。

2019年5月に改装がほどこされ、客室の約半数がプライベート施設を備えたツイン客室で快適な宿泊施設となりました。すべての客室は、窓側に位置し、十分な収納スペースを備えています。

船内には、バー/ライブラリー・ラウンジ・エリアとレクチャー・ルームがあります。船内のお食事は、ニュージーランドとオーストラリアのトップシェフが担当し最高のお食事ををご用意いたします。

探検クルーズには、経験豊富なナチュラリストとガイドが同行します。



バー、ラウンジ、図書室/イメージ

■主な施設

ダイニングルーム（お食事は1回制の自由席）
ラウンジ、図書室、バー、医務室、レクチャーシアター

■客室の主な設備

ラウンジのコーヒーステーションでは、24時間いつでも自由にコーヒーや紅茶、飲料水を無料でお楽しみいただけます。
衛星回線電話、Eメール



トリプル/イメージ



メインデッキ/イメージ



スーパーリア/イメージ



スーパーリアプラス/イメージ



ミニスイート/イメージ

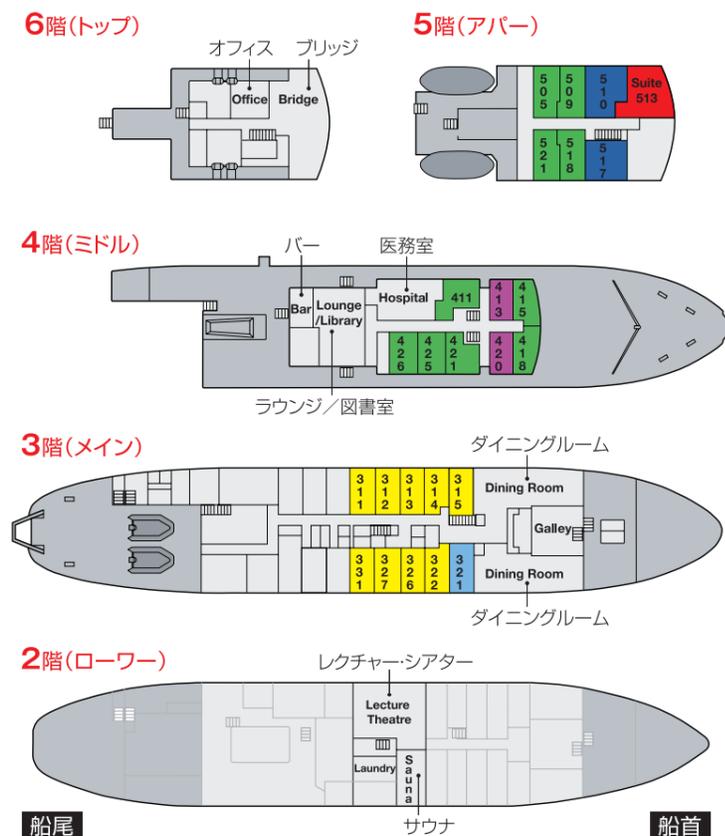


ヘリテージ・スイート/イメージ



シップデータ

- 就航年/改造年：1984年/2019年
- 建造国：フィンランド
- 総トン数：1,759トン
- 全長：72m
- 全幅：13m
- 喫水：4.5m
- 巡航速度/最高速度：10ノット/12ノット
- アイスクラス：KM（耐氷船）
- エンジン：2×1,147KW
- 乗客定員：50名
- 船籍：ロシア



- トリプル
- メインデッキ
- スーパーリア
- スーパーリア・プラス
- ミニスイート
- ヘリテージ・スイート

客室タイプ	客室の設備	階
トリプル(3部屋)	窓側（丸窓）、2段ベッドとシングルベッド、洗面台付 ※トイレとシャワーは共同利用で客室の外側にあります。	3
メインデッキ	窓側（丸窓）、ツインベッド、洗面台付 ※トイレとシャワーは共同利用で客室の外側にあります。	3
スーパーリア	窓側（角窓）、2段ベッド、トイレ、シャワー付	4
スーパーリア・プラス	窓側（角窓）、ツインベッド、トイレ、シャワー付	4、5
ミニ・スイート	窓側（角窓）、ツイン、トイレ、シャワー付 ※ベッドは、ダブルベッドとソファベッドが備わっています。 ※ベッドルームとラウンジエリアの2間になっています。	5
ヘリテージ・スイート	窓側（角窓）、ツイン、トイレ、シャワー付 ※ベッドは、ダブルベッドとソファベッドが備わっています。 ※ベッドルームとラウンジエリアの2間になっています。	5

（備考）トリプルの設定の無い探検クルーズもあります。

船内インフォメーション

船内プログラム(ディリープログラム)

その日のイベントや食事時間、上陸時間などを記したディリープログラムは、掲示板に掲示する他、テレビモニターに表示します。また、バーや図書室、ダイニングルームの入口、ブリッジなどのテレビモニターでご案内いたします。

船内での服装

船内では、ドレスコードはありませんのでディナーの時を含め、カジュアルで快適な服装でお過ごしください。

靴

船内では履きなれた靴あるいは、スニーカーが便利です。

客室の温度調節

全客室に温度調節装置が備わっております。

シーツとタオルの交換

シーツとタオルの交換は、3～4日毎におこなわれます。

アメニティー

小さな石鹸のみです。シャンプーやコンディショナーはありません。※スリッパ、パジャマ、歯磨き、髭剃りセットはお客様ご自身でご用意ください。

貴重品

船内の金庫をご利用ください。金庫の利用については、クルーズディレクターにご相談ください。

乗組員

ロシア人クルーですが、幾人かは、英語を話します。

飲料水

船内の水は、飲料水としてお飲みいただけます。

お食事について

ダイニングルームは、2か所あります。お食事は、1回制で自由席となります

コーヒー&ティ・ステーション

バーと図書室付近にあるコーヒー&ティ・ステーションには、インスタントコーヒー、紅茶、パープティ、インスタントスープ、ビスケットが用意されており、無料で24時間いつでも自由にお楽しみ頂けます。

ゴム長靴

レンタル用のゴム長靴はありませんので、お客様ご自身にてご用意ください。

パルカ(防水・防風性の防寒上着)

パルカは、お客様ご自身にてご用意ください

アルコール類やソフトドリンク類

バーやレストランでのアルコール飲料、ソフトドリンクは有料となります。

船内の通貨

米ドルの現金あるいは、クレジットカード(VISAとマスターカードのみ)をご利用いただけます。

船内チップ

お客様1名に付1日、US\$15です。下船前に現金でお支払ください。

クリーニング

セルフレンドリーの設備はありませんが、クリーニングとプレスを依頼する事は可能です。

レクチャーなどの船内プログラム

船内では各種レクチャーを予定しています。

図書室

極地関連の蔵書があります。僅かですがフィクションも用意しています。

郵便

お預かりした郵便物は、可能な場所で投函いたします。

ブティック

小さいながらブティックがあり、絵葉書やギフト、お土産品を販売しています。

サウナ

サウナの設備があります。使用方法についての詳細はクルーズディレクターよりご案内いたします。

医療

医師が乗務してお客様の健康管理をお手伝いいたしますが、治療や投薬は有料です。定期的に処方薬を服用されている方は、旅行中に必要な分をご持参くださいますようお願いいたします。

ヘリテージ社からの重要なお知らせ

●この北極探検クルーズは、ロシア連邦およびロシア地方当局からの承認を条件としており、これらの承認に応じて日程の変更を余儀なくされる場合があります。記載されている全ての訪問地は申請されていますが、承認に応じて日程を変更する場合があります。変更が生じた場合には、変更についてご案内いたします。

●この探検クルーズは、厳しい気象条件の北極の遠隔地を訪れるため、予期せぬ理由で航路や上陸場所を変更する場合があります。パンフレットに記載した日程は、天候、海象、氷の条件によって決定されますので、旅程を保証するものではありません。全力を尽くしてご案内いたしますが、明記された日程は、あくまでも目安としてご参照ください。

●天候及びロシアの港湾手続などの事情で下船が遅れる事がありますので、下船日に他の都市への航空便を予約をしないようお願いいたします。移動は翌日以降にお願いいたします。

●ローカルペイメントは、ご乗船後、米ドルの現金(US\$500)でお支払いいただけます。

●ヘリテージ・エクスペディションズ社では、ロシアのアナディリ発またはアナディリ着の探検クルーズの際、アラスカのノームとロシアのアナディリ間のチャーター機を運航いたします。ご希望の場合には、探検クルーズをご予約の際、併せてご予約ください。

※ノームからアナディリに向かう場合、国際日付変更線を通すために、アナディリには、ノーム出発日の翌日に到着します。

※アナディリからノームに向かう場合、国際日付変更線を通すために、ノームには、アナディリ出発日の前日に到着します。

■アラスカのノームからロシアのアナディリに向かう場合(例)

日次	都市名	発着	日程	宿泊	
0	ノーム	発	昼	空路、ノームからアナディリに向けて出発 (国際日付変更線通過)	機中
		着	午後		
1	アナディリ空港 アナディリ港	着	午後	着後、ロシアの入国・通関手続	
		発	午後	手続終了後、アナディリ港へ送迎、 アナディリ港着後、乗船	

■ロシアのアナディリからアラスカのノームに向かう場合(例)

日次	都市名	発着	日程	宿泊	
15	アナディリ港 アナディリ空港	発	午前	アナディリ港から空港へ送迎	
		着	午前	空港到着後、搭乗手続	
14	ノーム	着	午後	空路、アナディリからノームに向けて出発 (国際日付変更線通過)	機中
		発	午後		

この探検クルーズにご参加の場合、ロシア・ビザが必要となります。ロシアのビザ代実費及び取得手続手数料は、クルーズ代金には含まれておりません。別途申し受けます。

●ロシア・ビザ取得に必要な書類

- (1) パスポートの原本/日本帰国時6ヶ月以上有効なもの(未使用査証欄が見開きで2頁以上必要)
- (2) 写真1枚/写真はパスポート用の大きさと4.5cmx3.5cm ※横顔やサングラス、頭に被いをした写真は不可
- (3) ロシア・ビザ追加質問書
- (4) ビザ代実費/ビザの申請から受領まで2週間以上の期間がある場合、無料。但し、それ以外は有料となります。詳細はお問合せください。
- (5) ビザ取得手続し手数料/4,400円



ヘリテージ・エクスペディションズ社 旅行条件書

Heritage Expeditions Ltd. (以下「HE」という。)をお選びいただきありがとうございます。予約を確定する前に、お客様(以下「契約者」という。)におかれましては、以下の旅行規約を熟読されることをお勧めいたします。これらの一般規約並びに「契約者」という名称は、直接申し込まれる個人のお客様のみならず旅行者にも適用されます。(第1条第2項をご参照ください)

第1条 旅行の予約及び旅行通知

- 1.1 HEが提示した内容を契約者が書面にて受諾することによって、HEとの間で有効な旅行契約が締結され、本約款の第1条1.1から第11条11.3までに規定された全ての条項が適用される。同一申込書に契約者本人以外に、一名以上の同行者を記載することにより、同契約者は、本旅行契約並びにHEの旅行規約全般によって契約者本人だけでなく一緒に申し込みを行った同行者に対して生じる全ての義務について自動的に責任を負うものとする。
- 1.2 本旅行契約を、ツアーオペレーター、旅行社、旅行者代理店、財団、協会などを含む組織が書面にて受諾することによってHEとの間で有効な旅行契約が締結される。その場合、当該組織が、別途、個人や当該団体員、旅行者その他の第三者を含む顧客との間で旅行契約を締結しているとしても、当該組織が本約款の第1条第1項から第11条第3項までに規定された全ての条項が適用される専一的な契約当事者と見なされる。
- 1.3 契約者は、旅行契約が効力を発揮する前条項が適用される前に、HEに対して本人及び同行者、また旅行社などの組織が契約者である場合は、参加する顧客などの第三者に関する必要な個人情報を提供する。誤った内容、あるいは不完全な情報や個人情報の提供によって不完全な旅行クーポン券の発行といった結果が生じる場合があるが、その場合HEは責任を負わないものとする。
- 1.4 HEが書面による予約申込書を受領した後当該ツアーの予約確認書を契約者に送付することで予約受付の確認とする。
- 1.5 お一人様の参加で、相部屋を希望する場合、その旨を申込書に記載する。相部屋：メインデッキ、スーペリア、スーペリアプラスの客室タイプに限り相部屋での予約ができる。その場合は、追加代金無しで参加できる。尚、相部屋利用の場合には、陸上での宿泊ホテルも相部屋となる。(注)相部屋はリクエスドベースとなる。
2人部屋を1名で利用する場合、ツイン客室(メインデッキ、スーペリア、スーペリアプラス)は、クルーズ代金の180%、スイート客室(ミニスイート、ヘリテージ・スイート)は、クルーズ代金の200%が適用される。

第2条 提供される旅行の詳細について

- 2.1 契約者が予約する旅行の内容は、旅行予約確認書及びHEの最新のパンフレットあるいは旅行案内書に記載された内容が契約上有効なものである。
- 2.2 パンフレットや案内書類に記載された旅行内容からの変更は、HEによる書面での承認のみ有効となる。このような承認は、内容案内、旅行予約確認書あるいは後に送付される文書によって行われる場合がある。

第3条 支払い

- 3.1 旅行契約の履行に際して、別段の定めがない限り契約者はHEに対し、代金総額の25%を前金として支払う。代金総額の75%相当分の残金は、出発の90日前までに、ロス海、北東航路及びウラング島に向かう船旅の場合は同じく120日前までに支払う。割当保証がある団体の場合は、契約締結時に予約金合計額の25%を、出発の12个月前に代金総額の25%を、出発の180日前までに代金総額の50%をそれぞれ支払う。
- 3.2 HEによるクルーズ代金の支払いの受領をもって乗船券が送付される。
- 3.3 契約者が支払義務の遂行を怠った場合、HEは当該契約者に対して催促状を送付し即刻支払いを行う機会を与える。それでも支払いが行われない場合は、契約者は支払い当月を含む毎月の遅延利息として未払い額の1%相当額を支払う義務を負う。更に、契約者は、当該代金回収の法的手続き費用として別途、未払い額の15%相当額を、50米ドルを最低額として支払う義務を負う。契約者が支払い義務の履行を怠った場合は、HEは当該不履行発生当日をもって契約を解除し、その解約事務費用を本約款第6条に準拠して、若しくは旅行予約確認書の記載事項に基づいて請求する権利を保有する。
- 3.4 前項に關し、遅延分の支払いが行われたとしても、HEが乗船券を出発日までに契約者に届けることができない際に発生する特別な送料は契約者の負担とし、HEは乗船券の到着遅延について責任を負わないものとする。

第4条 旅程並びに旅行代金の変更について

- 4.1 旅程の変更は出発前に決定され旅行予約確認書に記載されるものとし、航空会社による各種の変更、フライトの出発時刻の変更、ツアー本編の前泊や後泊で利用するホテルに関する変更や旅程あるいは提供されるエクスカージョンについての若干の変更といった、ツアー内容の大幅な変更を伴わない場合のみ許される。HEはこのような変更が発生する場合は文書によって契約者に通知する義務を負うが、契約者は当該変更をキャンセルの理由に使用できないものとする。
- 4.2 旅行代金は、HEがパンフレットなどの刊行物の発行時点並びに旅行予約確認の時点で持得た各種代金、為替相場、税率や税額に関する情報に基づいて算出されている。HEは、為替相場変動や宿泊代金、航空会社、税率、税額、港泊使用料や燃料料の値上げなどの事前予測不可能な金額の増加に基づいて旅行代金を値上げする権利を保有する。HEは、このような値上げを必要だと判断した際には、出発の20日前までに契約者に対して通知する義務を負い、代金総額の10%以上の値上げとなる場合には契約者は何ら費用を負担することなく予約をキャンセルする権利を保有する。

第5条 HEによる旅行のキャンセルについて

- 5.1 出発の30日前までにツアーの最低参加人数を確保できなかった場合、HEは当該ツアーをキャンセルする権利を保有する。HEが提示する代替ツアーへの参加を望まない契約者に対しては、HEが受領した金額の全額が返還される。
- 5.2 HEは、戦争、暴動、自然災害、異常気象、悪天候や悪水況、自治体の法的規制、その他の天災といった不可抗力が発生した場合、ツアーを、何ら責任を負うことなくキャンセルする権利を保有する。出発日までに不可抗力が発生した場合、HEは契約者に対して受領済の金額を全額返還する。旅行中に不可抗力が発生した場合、HEは代替旅程案を提示する努力をするが、その提供が不可能な場合はHE若しくは契約者は旅行を途中解除する権利を保有する。この場合にHEは金銭面でその責任を負わないものの、キャンセルによる返戻金などの余剰金が発生した場合は、HEは契約者に対してこれを返還する。HEは、個人が団体での参加であるかを問わず、契約者全員について帰りの手段やフライトを確保する支援を行うが、その費用については契約者の負担とする。
- 5.3 HEが本約款第5条5.1及び5.2の規定に基づいてツアーをキャンセルした場合、契約者に対しては、請求したクルーズ代金相当額のみが返還される。HEは、契約者が事前準備の一環として負担した金額やHEのツアー参加のために他の組織を利用して予約したフライト、ホテル、乗り継ぎ手配、旅行保険加入料といった各種の移動や宿泊に要した費用について支払う義務を負わない。

第6条 契約者によるキャンセル

- 6.1 契約者は、出発前であればいつでも文書により旅行契約をキャンセルすることができる。契約者によるキャンセルが発生した場合、そのタイミングに応じてHEは以下の通り対応する:

	取消日	取消料
ご旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	予約時から180日前まで	US\$ 750
	179日前～121日前まで	クルーズ代金の 25%
	120日前～当日まで	クルーズ代金の100%
	旅行開始後、無連絡不参加	クルーズ代金の100%

※クルーズ旅行取消費用担保特約(キャンセル保険)に加入することをおすすめいたします。

- 6.2 予約申込後に契約者が当該クルーズについて、出発日、目的地や宿泊プランなどの予定の変更を希望する場合、それはキャンセル行為と見做され、第6条6.1に規定されたキャンセル費用の支払いが適用される。
- 6.3 個人が団体での参加であるかを問わず、契約者は、キャンセルに関わる支払金補償のために旅行キャンセル保険に加入することが可能である。第10条10.4も参照のこと。

第7条 HEの責任

HEは、旅行契約書の規定に準じて、旅行者が同契約書によって合理的な範囲において期待し得る内容に即した正確な情報を提供する責任を負う。HEは、船舶、ホテルやリゾート施設などの宿泊施設の選定、各旅程やエクスカージョン、自社パンフレットその他の出版物における旅程の記述の構成と品質管理、旅行申込確認、各旅程における予約業務の履行並びに乗船券の管理と発送について責任を負う。

第8条 HEの免責及び責任制限

- 8.1 HEは、ホテルの宿泊、船舶でのクルーズやダイビング・ベースが提供するサービスの利用、交通手段の利用といった宿泊施設、各種設備やサービスの提供者と契約者との間で交わされる各旅程を構成する要素の販売仲介者として機能し、また、そのためHEは法的責任を免責される。このような場合、該当する宿泊施設や設備の提供者の規定や国内法又は国外法上の規制が適用され、苦情、賠償請求、所持品や手荷物の紛失・損害、人身傷害、死亡などを含む全ての法的責任からHEは免責されるが、こ

の内、賠償請求の際には、HEは設備提供者と契約者の間を仲裁する努力をする。オプションのエクスカージョンなど、HE以外の第三者を通じて契約者が予約したオプションの旅程についてHEは法的責任を負わない。

- 8.2 HEを通して予約した、スキューバダイビング、水泳やシュノーケリングなどを含む陸上及び水中でのエクスカージョンや活動プログラムに関する全ての旅程は、個人が団体での参加であるかを問わず、契約者の完全なる自己責任において行われる。そのため、HEは、人身傷害、病気や死亡などのあらゆる損害についてその理由や原因を問わず、一切の責任を負わない。契約者がダイビング・プログラムを予約した場合、HEや場合によってはダイビング・ベースあるいはHEの船内ダイビング責任者によって、契約者が自らの完全なる責任で行うことを認識し、永久的な傷害や死亡に結びつくような事故が発生した場合も、ダイビング・ベースや船上ダイビング責任者に対して賠償請求を提出しないことを誓約する書類への署名を求められる。HEのダイビングツアーのパンフレットに詳細な参加条件は明記されている。また、いかなる場合でも契約者は医師の署名入りの健康診断書(国際的に認定されたダイビング認定カードを持つ必要がある。また、陸上でのアクティビティへ参加するには、契約者は基本的な良好な健康状態にあることが必要である。個人が団体での参加であるかを問わず、契約者は旅行保険に必要に応じて事故保険を追加して加入することを常に勧めていく。(第10条10.4も参照のこと)
- 8.3 HEが飛行機による旅程を提供している場合、HEはいかなる法的責任を負わず、また当該旅程については該当する航空会社の規定が適用される。フライト条約の規定では死亡や傷害事故並びに遅延や手荷物の紛失や損害について、航空輸送業者の責任を基本的な制限している。遅延については、予約されたツアーの他の旅程に影響し、かつHEはいかなる責任を負わない。
- 8.4 HEは乗船券、手荷物その他の所持品の紛失、損害や盗難についていかなる責任をも負わない。
- 8.5 HEは、旅行保険や旅行キャンセル保険によって補償が行われる損害について損害賠償責任を負わない。
- 8.6 HEは、旅行契約が正しく遵守されないことで生じた損害について、その契約遵守の不備が契約者に起因する場合、何ら法的責任を負わない。
- 8.7 HEが提供するツアーは、いわゆる「遠隔地」を主な目的地としており、インフラや医療施設があまり整備されていない地域へのエクスペディションの実施を含むものが多い。旅行の申込にあたって契約者は、HEの提供するツアーを一般的なツアーと同様に考えるべきではないことを完全に理解している必要がある。天候、海象、航海上の理由や浮水といった要因によりHEが旅程の変更を決定した場合、代替プランの提供に最大限の努力が払われるが、極端な場合には必ずしもこれを保証できるものではない。そのような場合、期待する契約内容の不履行に対して賠償請求の根拠とはならないものとする。ツアー内容の説明通りにツアーが運営され、旅程表に記載された場所を訪れることができなかったとしてもHEはその損害や休暇の楽しみを損なったことへの賠償責任を負わない。エクスペディションの責任者は、ツアーの品質維持に貢献すると判断した場合にはいつでも旅程を変更する権限を保有している。そのような場合でもHEは賠償責任を負わない。

第9条 契約者の義務

- 9.1 契約者は、ツアーの安全な運営を可能とするために、HE及びエクスペディションの責任者、ガイド、ダイビング・インストラクターやダイビング・アシスタント、船のクルー、地元のエコツアーやホテル、リゾート施設やダイビング・ポイントなどの施設スタッフといったツアー責任者による全ての指示に従う義務がある。更に、契約者は、他のツアー客、ホテル、船舶やリゾート施設への損害を与えるなどの自らの不適切な行動に起因する損害について模範的な旅行者の行動基準に照らし合わせて判断され、その全責任を負う。
- 9.2 ツアーの正常な運営を阻害する、もしくは本人自身や他のツアー客に危害が及ぶような騒動を起こした、あるいは起こす恐れのある契約者は、HEあるいはツアー責任者や地元の代理人などの代理人によって旅程の全て又はその一部分への参加から除外される可能性がある。特定のアクティビティからの除外された場合でも、契約者は該当部分に関する代金返還を請求することはできない。
- 9.3 迷惑行為や本約款第9条9.1及び9.2に規定されるような損害行為が発生した場合、これに起因する全ての費用は当該契約者に対して請求される。
- 9.4 契約者が基本的な良好な健康状態にない場合や、ツアー参加条件に挙げられたダイビング認定証やダイビングの経験を持たない場合、契約者本人や他のツアー客のために、HEは当該契約者用に代替プランを提供するが、極端な場合には当該契約者を特定の又は全てのエクスカージョンやダイビング・プランから除外することを決定する権利を保有する。このような制限事項は、契約者がHEの発行物に記載されている必要なダイビング用具などを所有していない場合にも適用される。エクスカージョンからの除外や代替プランへの強制変更を受けた場合でも、契約者はクルーズ代金の該当部分についての返還は一切請求することはできない。
- 9.5 契約者は、HEのツアー責任者に対して、本人もしくは団体の場合はその参加者が旅行契約履行に反する過失行為について気付いた時点で通知する義務を負う。通知は、可及的速やかに、文書又は他の適切な伝達手段によってHEの該当する責任者に対して行われる必要があり、かような通知を受けた責任者は即時、最速な解決策の模索に最大限の努力を、苦情への対応に連れては、以下の人員が責任者である。クルーズ中の一般的な苦情についてはエクスペディションリーダー、エクスペディションリーダーが不在の場合は船長、ホテルや陸上でのアクティビティについてはホテルあるいは該当する組織の責任者
- 9.6 苦情への対処策が即座に見出されない場合、契約者もしくは団体での参加の場合はその参加者は、その苦情を予約の際に利用した旅行社などの組織に通知する必要がある。その通知を受けた旅行社はHEに対してその苦情を報告し、支援を要請する義務を負う。旅程に関する苦情の場合は、HEは、ホテル、客室やエクスカージョンなどについて、当初予約されたツアー内容とは異なる代替プランの提供を決定することが可能である。
- 9.7 HE又は代理人、ツアー責任者や地元エージェントは、以下の場合には苦情を却下する権利を保有する：ツアーの本質に重大な影響を及ぼさない、あるいは最小限の損害にしか結びつかないと思われる場合、契約内容の不履行の原因が契約者自身にある場合、契約内容の不履行の原因が不可抗力にある場合、な、不可抗力)とは、第5条5.2にも記載の通り、主張者の意思とは無関係であり、あらゆる予防措置にも拘わらず回避することができなかった異常かつ予測不能な状況、と理解される。
- 9.8 ツアー中に苦情が納得のいく解決を見なかった場合、契約者もしくは団体での参加の場合はその参加者は、その苦情を予約の際に利用した旅行社などの組織に通知するべきであり、その通知を受けた旅行社はHEに対して、当該苦情内容を詳細に説明した文書によって、ツアー終了日から速くとも1か月以内に報告するものとする。
- 9.9 HEが苦情について納得のいくような解決を行わなかった場合、あるいはその解決策によって十分な満足を得られなかった場合、契約者は本件の専属管轄裁判所であるニュージーランド紛争審判所に提訴する権利を保有する。

第10条 手荷物並びに渡航文書と保険について

- 10.1 団体での旅行の場合、本条10.1から10.4までは、契約者に旅行主催者の顧客を加えるものとする。
- 10.2 契約者は、出発時及び旅行期間中において、有効なパスポート、許可された場所については出入国カードや必要なビザ、ダイビング認定証、ダイビング・ログブック、医師による健康証明書、予防接種やワクチン接種の証明書などの必要な渡航文書を常時所持していなければならない。書類の不所持や有効期限切れによってツアーに参加できない場合、HEは、自らが該当文書を提供した場合を除いては法的又は金銭的責任を負わない。
- 10.3 速くとも旅行契約への署名の時点までに、HEは旅行契約者に対してパスポート、ビザや健康管理に関する一般的な情報を提供するが、この情報はHEに何ら義務を負わせるものではなく、契約者自らが必要な情報を該当する機関より入手し、出発前にそれまでに提供された情報に関する変更の有無を確認する義務がある。
- 10.4 契約者は、様々な目的地における現行の輸入規制や許可される手荷物の分量、さらに航空会社によって異なる手荷物の規定に従わなくてはならない。損害や法律違反によって課せられる実刑判決などについてHEは何ら責任を負わない。
- 10.5 HEは、旅行保険、事故保険、第三者損害賠償責任保険、手荷物保険や旅行キャンセル保険などの必要な旅行保険に加入することをお勧めする。船上や陸上を問わず、旅行中に健康上の問題が発生した場合、その治療行為、緊急避難、航空機の使用や本国送還などの費用が発生するが、これらの支払い義務は当該旅客のみが負う。HEは、各自の旅行保険がこうした事態を補償していることをあらかじめ確認することを強くお勧めする。加入した旅行保険がこれらの事態を補償していない場合でも、その費用の支払い義務は当該旅客が負い、HEはいかなる法的責任を負うものではない。

第11条 一般事項

- 11.1 HEの刊行物で旅行の期間が日数で表されている場合、出発日と到着日についてはその出発時間や到着時間には拘わらず、それぞれ丸一日として算定する。決定した出発時間及び到着時間は乗船券に記載されている。
- 11.2 本旅行契約及びその記載するところによって適用される訴訟や審理はニュージーランド国の法律に準拠する。
- 11.3 本文書とその内容はAntarctic House, 53B Montreal Street, PO Box 7218, Christchurch 8240, New Zealandに事務所を置くHeritage Expeditions Ltd. 社に属する。

この旅行条件書は、「ヘリテージ・エクスペディションズ社の条件書(英文)」を日本語に翻訳したものです。すべてにおいて「ヘリテージ・エクスペディションズ社の条件書(英文)」が優先します。



ご案内

- **申込金(大人お一人様)：クルーズ代金の25%**
- **残金のお支払い** ご旅行出発の121日前までにお支払頂きます。
(注)クレジットカードで残金をお支払の場合には、2.5%の手数料を申し受けます。予めご了承ください。
- **取消料**

	取消日	取消料
ご旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	予約時から180日前まで	US\$ 750
	179日前～121日前まで	クルーズ代金の 25%
	120日前～当日まで	クルーズ代金の100%
旅行開始後、無連絡不参加		クルーズ代金の100%

※クルーズ旅行取消費用担保特約(キャンセル保険)に加入することをおすすめいたします。

■ シングル利用代金

客船名	ツイン客室をお一人様で利用する場合の代金&客室タイプ	
	2名1室代金の180%	2名1室代金の200%
ヘリテージ・アドベンチャラー	● スーペリア・デッキ4 ● スーペリア・デッキ5	● ウォースリー・スイート ● ヘリテージ・スイート
スピリット・オブ・エンダービー	● メインデッキ ● スーペリア ● スーペリアプラス	● ミニ・スイート ● ヘリテージ・スイート

■ **相部屋について**／お一人様でご参加の場合、下記の客室タイプに限り、相部屋のご予約を承っています。相部屋の場合には、追加代金無しでご参加いただけますが、陸上での宿泊ホテルを使用する場合も相部屋となります。

客船名	相部屋での予約可能な客室タイプ
ヘリテージ・アドベンチャラー	● メインデッキ・トリプル ● スーペリア・トリプル ● スーペリア・デッキ4 ● スーペリア・デッキ5
スピリット・オブ・エンダービー	● メインデッキ・トリプル ● メインデッキ ● スーペリア ● スーペリア・プラス

※メインデックトリプルは、設定がある場合に限りです。

■ 旅行代金に含まれるもの

- クルーズ前後の送迎
- 船内での宿泊と全食事
- 目的地での上陸観光及びゾディアック・クルージング

■ 旅行代金に含まれないもの

- ランドリーやお土産代等の個人的な費用
- 船内チップ
- 航空運賃
- 旅券やビザの取得代
- 海外旅行保険
- オptionalツアー

■ 船内での言語：英語

■ **パスポートは、日本帰国時6カ月以上有効なものが必要です。**

■ **探検クルーズに参加するのに必要な国のビザ：ロシア**

■ **この旅行では厳しい気象条件の遠隔地を訪れるため、予期せぬ理由で航路や上陸場所を変更することがあります。パンフレットに表記した日程は気象、海象、氷の条件によって決定されますので旅程を保証するものではありません。全力を尽くしてご案内いたしますが、表記の日程は、あくまでも目安としてご参照ください。**

● 写真提供：ヘリテージ・エクスペディションズ

● お申込み・お問い合わせは

お申込みから出発まで

ご予約

- ↓ 電話またはEメールでご予約ください。
(持病をお持ちのお客様はご予約時にお知らせください。)

ご予約の回答

- ↓ ご予約の回答まで2～3日間を要します。(土・日・祝祭日を除きます)ご予約の回答は、電話またはEメールにてご連絡いたします。

申込書と申込金

- ↓ ご予約がOKになりましたら「申込書」と「申込金の請求書」をお送りいたします。

「申込書」をご記入の上、「パスポートの顔写真が貼ってある頁のコピー」を添えて同封の返信用封筒にて弊社宛てお送りください。

「申込金」は、弊社指定の銀行口座にお振込みください。

申込金は、日本円にてお振込みいただきます。為替レートは、請求書発行日の**銀行キャッシュ・セリングレート(CASH S.)**を適用いたします。申込金は、クレジットカードでのお支払いはできません。予めご了承ください。

契約の成立

- ↓ 申込書と申込金を弊社が受領した時点で契約が成立いたします。

残金のお支払い

- ↓ 残金請求書をお送りいたしますので、ご旅行出発の121日前までに弊社指定の銀行口座にお振込みください。
(注)クレジットカードで残金をお支払の場合、2.5%の手数料を申し受けます。予めご了承ください。

契約書類等

- ↓ ご旅行出発の4ヶ月前頃に「極地クルーズ契約書類」をお送りいたしますので、同封の書類をご記入の上、弊社宛てご返送ください。書類は次の通りです。
(1) 極地クルーズ契約書
(2) 健康情報(健康アンケート)
(3) 到着と出発のフライトスケジュール

資料の発送

- ↓ ご旅行出発の約2ヶ月前頃に資料をお送りいたします。

最終書類の発送

- ↓ ご旅行出発の4～3週間前頃に最終書類をお送りいたします。

ご旅行出発

ご旅行に出発。
感動と浪漫あふれる北極探検クルーズをお楽しみください!

海外旅行保険の加入について

極地旅行では、人間の住んでいない遠隔地を訪れます。病気や怪我で緊急に治療が必要になった場合、極地から高度な医療設備の整った病院へ搬送するために飛行機のチャーター代等、莫大な費用が発生します。極地旅行へ参加するお客様は**3,000万円以上の傷害死亡、傷害後遺障害、治療・救援費用等を含むセットタイプ**への加入が参加条件となります。また、ご旅行出発前に病気や怪我等で旅行をキャンセルしなければならなくなった時のため、「クルーズ旅行取消費用担保特約(キャンセル保険)」への加入をおすすめいたします。**クレジットカード付帯の保険ではご旅行をお引き受けできません。**詳細につきましてはお問合せください。

ヘリテージ・エクスペディションズ社 日本地区正規代理店

株式会社 クルーズライフ

日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第2054号
〒104-0032東京都中央区八丁堀4-10-8 第3SSビル303

TEL 03-6228-3981

FAX 03-6228-3982

E-mail contact@cruiselife.co.jp